

Vol.6

# Passo a Passo

 社会知性  
Socio-Intelligence  
の発展をめざす  
Senshu University  
univ.



# Passo a Passo

## 目次

はじめに「資格取得ブームの中で」.....	3
——専修大学教職課程協議会委員長 経済学部 教授 矢吹 芳洋	
随 筆「元青花瓷研究へのアプローチ」.....	4
——文学部 教授 亀井 明德	
特別寄稿「教職と性教育」 .....	11
——法学部 教授 広瀬 裕子	
<b>教職課程</b>	
「情報」と「教育」にまつわるアレコレ .....	14
——ネットワーク情報学部 助教授 香山 瑞恵	
卒業生から .....	16
教員採用試験体験記 .....	20
教育実習を終えて .....	24
介護等の体験を終えて .....	30
<b>司書・司書教諭課程</b>	
「情報サービス概説」～双方向性のある講義実現の試み～ .....	32
——文学部 兼任講師 中島 玲子	
卒業生から .....	34
図書館実習を終えて .....	35
<b>学芸員課程</b>	
発掘の楽しさ .....	38
——文学部 教授 土生田 純之	
美術館存続の危機 .....	40
——川崎市市民ミュージアム 学芸員 杉田 真珠	
博物館実習を終えて .....	41
<b>データ編</b>	
平成15年度資格課程履修者数 .....	44
平成15年度教員免許状取得状況一覧 .....	45
平成15年度実習先一覧（教育実習）.....	46
平成15年度実習先一覧（図書館実習）.....	49
平成15年度実習先一覧（博物館館務実習）.....	49
主な就職先一覧（教職）.....	50
主な就職先一覧（司書・学芸員）.....	52
平成15年度資格課程年間行事表 .....	53
平成15年度資格課程教員紹介 .....	54



# 資格取得ブームの中で

専修大学教職課程協議会委員長 経済学部 教授 矢吹 芳洋

資格取得ブームが言われて久しい。景気低迷の長期化に伴い、これまで日本社会を特徴づけてきた終身雇用制や年功序列賃金体系が崩れ、個々の労働者はリストラに危機感を懐きながら日々生活せざるをえなくなっている。こうした不安の中で、せめてもの自己保身策として資格取得がブームを生んでいるという。

ブームは高校生や大学生の間にも広まっている。広告代理店電通の「受験生の大学進学に関する意識調査」によると、大学を選択する際の重視点として、「自分が学びたいことができる大学」、「将来就きたい仕事の知識や技術が身につく大学」、「自分が学びたい分野の評価が高い大学」に次いで「将来就きたい職業に必要な資格や免許が取得できる大学」という回答が多く、「就職率が高い大学」や「就職指導が充実している大学」を大きく上回っているという。また、進路情報誌を出版する(株)進研アドの調査でも、高校生の進学目的が変化し、従来通り有名大学を志望するブランド志向は残るものの、これまで高かった専門分野の学問研究や安定した職業確保が減少傾向にあり、資格・免許取得が増加して大学選択の重要な基準になっているとしている。

ブームは本学の資格課程でも数字として表れている。過去3年間の資格課程の履修者数の推移を見てみると、延べ人数であるが、平成14年度2,046名、同15年度2,160名、同16年度2,322名と増えつづけている。教職では、履修単位数の引き上げ、実習期間の延長、介護等体験の導入など免許取得制限策が導入されているにもかかわらず増え続けている。

せっかく資格や免許を取得し

ても就職は簡単ではない。司書や学芸員は元々採用数が少なく実数に表れにくい、教員採用でははっきり出ている。遙か昔の話になるが、合格者の数が三桁を数えた時期もあったと聞く。現在では、極めて少数の合格者しか出せていない。しかも、3年、4年と講師を続けた者がやっと合格できる状況である。もっとも悲観ばかりする必要もない。小学校では、ここ2、3年改善して本学の卒業生からも合格者を出している。中学校も団塊世代の大量退職時代を迎える4、5年後には合格率がアップすることが期待できる。

われわれ資格課程のスタッフもまったく手をこまねているわけではない。教職課程を例にとると、毎年10月には教職公開講座を開催し、採用試験合格間もない現職教員と採用に関わった経験を持つ人物を招き、採用試験の勉強の仕方や教職への心構えなどを指導していただいている。また、春休み期間中には教職特別講座を開催し、われわれスタッフとOB、OG教員が教職教養や面接試験、小論文など採用試験対策の指導をしている。さらに、OB、OG教員の研究会で毎年11月に開催される専修大学教育学会には、現役学生の特別参加を認めていただき、研究会、講演会、懇親会で先生方と交流させていただいている。そして、OB、OGの若手教員が主催し隔月開催されている社会科研究会に現役学生や卒業生が参加させていただき指導していただいている。真剣に教職をめざす現役学生と卒業生で構成される自主的勉強会としてたまごの会があり、本学スタッフの指導の下、2ヶ月に一度のペースで活動している。この他にも、個々のスタッフにより、教育系大学院への進学指導や授業を通した

実践的受験指導が行われており、教職をめざす意欲的な学生の支援態勢は整っている。

しかし、残念ながらハード面は十分とは言えない。他大学では、資格課程独自の指導室を持ち、事前指導や相談、そして情報交換が行われていると聞く。様々な会でOB、OG教員や退職教員の方々と話をする機会があり、近年の採用状況を憂い協力の申し出をいただく。先の公開講座や特別講座でご協力いただいているが、そうした年に一度のイベント的な場での指導でなく、恒常的な指導態勢の整備が合格率アップにつながる。それには、教職や司書、学芸員をめざす現役学生とOB、OGの現職者や退職者が集え、気軽に相談や指導を受けられる場としての「資格課程指導・資料室」が不可欠である。今後は、そうした場の確保に向け努力して行きたいと考えている。

最後になるが、外的条件の整備はわれわれスタッフの責任である。しかし、学ぶのは免許や資格を取得する学生諸君である。OB、OG教員の方々が、忙しいスケジュールを遣り繰りしながら来てくれるのに、講座や研究会への参加者はわずかである。迷っている者もとにかく参加して状況を把握することから始めよう。たとえ厳しい採用状況が続くとも、強い意志を持ち日々鍛錬を重ねていけば必ず願いは叶う。講師を続けながら教職をめざす卒業生と時々会う機会があるが、苦難の中で人間的に逞しくなっていくのが見て取れる。そして合格は間近だと確信する。難関をくぐり抜けて教員となったOB、OGたちは、さらに逞しさを増して行く。夢を実現するには何が必要か身をもって示してくれているようである。学生諸君の奮闘を期待する。

# 元青花瓷研究へのアプローチ

文学部 教授 亀井 明徳

## a. 資料を追って

今年の5月の初め、私は、長野電鉄で、目的地である信州中野に旅をしていた。すでに、リンゴの花は終わり、北信濃にも初夏が訪れようとしていた。長野市と湯田中温泉をむすぶ長野電鉄の二両連結の軌道車は、千曲川に並行して北上し、のんびりと車体を揺すって、蛇行しながら田園をぬけて行く。

葛飾北斎の滞在地としてよく知られている小布施の街を通過する。東京を早朝に、あわただしく発ち、新幹線の終着地である長野駅で乗り換えると、通勤通学時間からはずれ、人影のまばらな車内は、なにごともなく、黒姫山の雄姿を左にみて、たゆとうかの如く走っている。

目的の信州中野市にある歴史民俗資料館は、中心からすこし離れた一本木公園のなかにある。ここに中世の山城である小曾崖城跡から、地元の研究者によって採集された約80片の陶磁器が保管されており、その中に元青花瓷の小さい破片が1片ある。30年ほど前に、この破片が出展されていた群馬県立歴史博物館で略測をさせてもらったが、どうも気にかかり、再びきちんと実測図を作成して、調書を作り直したいと考えていたが、積年の思いがやっと実現できた。

この城跡から採集された中国陶磁器は、景德鎮窯青花瓷・竜泉窯



写真1. 長野・小曾崖城跡

青瓷・福建召武窯・同建窯および広東付近窯の産品であり、元から明初の時期に集中している。いずれも小さな破片であり、展示される機会も少ないようである。

この山城遺跡は、破壊される危険もないようであり、発掘調査は現在に至るもされていない。陶磁器片の採集も、とくに恣意的・選択的にされているとは考えられないが、その生産年代の幅が狭く、かつその多くは貿易陶磁器として質的に高いことが注目される。採集者から、中野市歴史民俗資料館に寄託・保管されている陶磁器片について調査をさせていただいた。

目的とした青花瓷器のほかにも1片を見つけて、嬉しく、豊かな気持ちになる(写真1)。いずれも有名な景德鎮窯の製品である。既に報告されている瓶とみられる破片は、元時代の特徴を示す幅広の蓮弁、



写真2. ブリティッシュ・ミュージアム

いわゆるラマ式蓮弁文がのこり、その内に垂下する円文をのこしている。地はわずかに青みをおび、釉面にはこまかいピンホールが無

数にみられ、2次的な被火をうけていると考える。

内面は、櫛様なものでかきとるかのような粗いヨコナデ調整であり、胎土にはこまかいゴマ状斑点がみられる。蓮弁部分での胴径は10.5cmをはかり、長頸瓶の腰部部分の破片とみなしたい。

このような小さな破片から、本来の姿を復元することが求められている。写真2のような頸部をのばした長頸瓶(British Museum)、いわゆる玉壺春瓶の器形であり、その腰部の破片である。

他の小さい1片は、器肉厚さ5ミリほどで、内面は無釉であり、小壺の胴部破片と考える。重なる表現の葉文が数枚みられ、その先端は細線を付け加える元青花瓷の特徴がみられる。胎土・調整は、上記の瓶と類似している。

この他にこの遺跡から採集された竜泉窯青瓷：碗・皿・壺・盤・香炉などは、良質のものが多くことに特徴があり、青瓷香炉などは、少なくとも3個体はあり、戦乱の中世城下での館主の粋な生活がしのばれる。白瓷の小皿は、盃として使われたと推定するが、この生産窯は、福建省の召武窯に比定できることが、最近明らかになった。

青花瓷は、江西省の景德鎮湖田窯のよく知られた製品であり、竜泉窯は、浙江省南部、召武窯は福建省西部にある。いずれも現在の海岸からかなり遠隔の地にあり、河川で明州(寧波)や泉州・福州の港まで運ばれ、8千キロの波濤をこえて、彼の地からはるばると運ばれてきたのである。

こうした元青花瓷は、わが国の約30個所の遺跡から発見されており、そのほとんどは、ここに見るような、きわめて小さい破片であり、原形を図上で復元することが、

まず第一の仕事である。

そのためには、とるに足らないような破片を細かく観察することが必要であり、上の細かい記述箇所は、不要な文章におもえられるかもしれないが、これが肝要である。真実は細部に宿るなどという大げさなことではないが、細部の厳密な観察なくして、砂上の楼閣となる。

元青花瓷が発見されている遺跡は、秋田県牡鹿市の脇本城を、現在のところ北限とし、関東・北陸・畿内から九州、そして沖縄県におよんでいる。それらのすべての資料を手にとって調べ、実測図を作成したいと計画し、大学の授業の合間をぬって、旅回りを続けている。

信州中野の名物の蕎麦を、館長さんからご馳走になり、その庭先に大きな牡丹とともに、小さなスズランの花がさいていた。その数日前の5月1日にフランスでは、この花を贈り物とする習慣があるようで、パリの街角のいたるところで売られていたことを思い出した。ここには、ヨーロッパで有数の東洋美術を所蔵するギメ美術館があり、5日間通って、調査をしてきた。

#### b. 再び資料を追って

中野市歴史民俗資料館の方々にすっかりお世話になり、夕刻に辞去した。帰途、時間がゆるせば田布施に立ち寄りたとも思っていたが、これはかなわぬ

無理な日程であった。

長野から信越本線に乗り換えて、新潟県の直江津へ夜汽車になった。信越線は、黒姫、妙高の上越高原を、折からの霧雨のなかを、あえぎながら登って行く。

今、この鉄道路線は、新幹線建設との狭間におかれ、本数も少なく、急行すらなくしてしまい、利用者にきわめて不便を要求している。その夜は、北陸本線の寝台特急トワイライトエクスプレス札



写真3. 新潟至徳寺遺跡

幌行きの遅延を優先して、その遅れをこのローカル線にかぶせて、直江津駅には大幅に遅れて、深更に到着した。

翌朝、私は、上越市埋蔵文化財



実測図

センターを訪れ、ここでまた、すばらしい元青花瓷に対面できた。

今度は9片の、これも小曾崖城跡と同じような長頸瓶であるが、全体を八面形に面取りしてつくるタイプであり、円形瓶よりもはるかに数少ない。これらの破片の厚さ、上下、曲線、裏面にみえる製作時に痕跡などを観察し、組みたてたのが実測図である。

頸部に腰部に幅広の蓮弁文を配して、胴部は、二重の縦線で八面を4区画に分け、その内に菊花文がのこっているが、よくみると菊とは異なる鉄線花(5弁花)の葉もある。おそらく、4区画内に菊花と鉄線花を交互に組み合わせた図文が描かれていたのであろう。

2000年の夏、私は、専修大学の短期国外研修の機会をえて、欧州美術館所蔵の中国陶磁器資料の収集をこころみる3ヶ月の長く、厳しい旅行をしていた。

イタリア北部のフィレンツェから鉄道で南に1時間ほどさがつた街、アレッオの中世歴史博物館で、この青花瓶とよく似たものを見つ



写真4. イタリア・アレッオ中世歴史博物館

けた。白地にコバルトで描かれた繊細で、かつ力強い文様は、このタイプの青花瓷の大きな特徴である(写真4)。

おりから9月の第1日曜日にあたり、この街でも中世の騎士の姿をして、槍で突きあう祭りが開かれよう

としていた。ひと気のない展示室で、この青花瓷を見つめながら、14世紀の元時代に、中国からはるか西の地に、こうしたコバルト色のやきものをもたらされた状況に、強く興味をひかれたことがよみがえった。

施文は少し異なるが、同じような青花瓷瓶が、ほぼ同一時期に北陸にももたらされているわけであり、中国陶磁器は国際切符である。

これが出土した遺跡は、JR直江津駅の南側に広がる至徳寺跡遺跡であり、越後府中の想定地である。中世後期において、1辺約250m四方の堀(幅6-8m)にかこまれた区画が検出され、守護所に比定する説が有力である。

至徳寺については、管領細川政元など幕府要人をもてなす客館的な役割をもっていたことが指摘されており、こうした席においてコバルト色の美しく、日本では作れなかった瓶に酒をみたくして、宴を飾ったのであろうか。

同時に出土した遺物のなかに火を受けていたものがみられことから、これを永正の乱(1507-10年)によるものと推定されている。このときを境にして、政治の中心が守護所から春日山城へと移動したと考えられている。

### c.元青花瓷のなぞ

元青花瓷は、中国陶磁の歴史、ひいてはわが国はもとより、世界の陶磁器の歴史を大きく転換させた発明である。

今日、私どもは、絵付けされたやきもので食事し、お茶を飲んでいる。青瓷や白瓷の食器で生活している方もいるであろうが、今日のやきものの主流は、絵付けされた陶磁器である。その歴史は、中国の長いやきもの史のなかでは、

新しい最近といってよい過去の発明であり、せいぜい800年が経過しているに過ぎない。

白地にコバルトで、絵を描くというやきものは、青瓷や白瓷という、いわばモノクロームの世界から、2色、やがては赤・黄・緑・藍・金など極彩色に彩られたやきものを生み出していき、今日、中国陶磁器に私どもがいただいている、かなり派手な色彩に発展している。そのスタートが、青花瓷にあり、近世以来の陶磁器の原点がここにある。

中国で、14世紀に生まれた青花瓷は、周辺諸国のやきもの生産に大きな転換をせまり、ベトナム・タイ・ミャンマー・朝鮮においても、旧来のやきものをイノベートし、さまざまな試行錯誤をおそらくは重ねて、青花瓷生産技術を会得し、主たる生産をこれに転換している。アジアで最も遅れていたわが国も1600年すぎには、有田で染付けと称する青花瓷の焼成に成功している。

さらに、中国で生まれた新技術は、ヨーロッパの人々に大いなる刺激をあたえ、中国から青花瓷を求めるとともに、18世紀の初めになると、マイセンをはじめとして各地で試作がなされ、瓷器生産がはじめられる。

すなわち、元青花瓷は、中国から発信され、グローバルな展開をみせた文明のひとつである。

この画期的な発明のプロセスは、いまだ不鮮明な部分が多いが、1300年ころ、中国南部の江西省景德鎮窯で開始されたことは動かない。当初の生産量は決して多くないようであり、景德鎮の湖田窯の調査では、当時盛行していた青白瓷・白瓷が生産量の98%以上を占め、青花瓷はきわめて少ない。

新しい技術は、大量生産を可能とするには、多くの時間が必要であったとみられるが、従来少なかった大型の盤や罐(壺)がつくられ、雄渾な文様とあいまって、草創期に特有の力感にみちたやきものが作られている。

現在、これらの大型の青花瓷を、まとまった形で最も多く保有しているのは、中国ではなく西アジアである。

トルコのイスタンブールにあるトプカプサライ・ミュージアムと、イラン西北部にあるアルデビル・シュライン(廟)であり、30個体以上の大型青花瓷が、かつては実際に使用され、現在はその厨房や廟を展示室に利用して公開されている。さらに、インドのデリーにあったトゥグルク宮殿の敷地から70点に達する大型盤などが発見されている。

このように、西方に多くの遺例があることから、元青花瓷は、景德鎮窯から西アジア向けの輸出品として作られたという説が生まれてくる。くわえて、コバルトの原料が西方から運ばれてきたものであるという考えは、この説を強固にし、「外需品」という概念を生み出している。

一方、中国本土からは、出土例が少ないことは事実である。中国陶磁器は、一部の宮廷御用の官窯製品をのぞいて、中国各地の遺跡から大量に出土するのは当然である。しかし、元青花瓷の出土は、60遺跡程度の少なさである。さらに大型の器種も少ないとされている。

元青花瓷をめぐる最大の謎は、その出現の道筋の解明にある。13世紀の景德鎮は、周辺の窯業生産の勃興によって、衰退傾向にあったとみられ、製品の改革が求めら



れ、新たな模索が始まっていた。絵付けをくわえることも、その試作のひとつであるが、どのような契機で、どのようなプロセスで、青花瓷に到達したのか、現在、合理的な説明がなされているとはいえない。

いつごろ出現したのかについても、至正11(1351年)の紀年銘のある大型花瓶1対(ロンドン大学デヴィッド財団美術館蔵)が、本格的な青花瓷の初現をあらわすかのように、忽然として登場してくるのも謎である。

d. 元青花瓷研究へのアプローチ

元青花瓷をめぐるこうした大きな研究テーマに対峙して、私は5つのアプローチを設定して取り組みはじめた。

現在の内外の研究状況を瞥見すると、資料の厳密な観察にやや難があるように感じられる。全体を通じての私の研究姿勢は、事実関係を、可能な限り、正確で、かつ悉皆的に情報を獲得することにある。

第1のアプローチは、中国出土資料の集成である。すでに出土地名表はいくつか発表されているが、残念ながら、それらはかなりの部分においてリストの修正が必要である。中国で出されている元青花瓷に関連する全報告書に目を通し、悉皆的に、出土品を集成する仕事に取り組み、現在、初稿までこぎつけた。

この仕事は、膨大なエネルギーを必要とし、大学院生3人と共同で進めている。この種の集成には、遺漏と誤謬は避けられないが、あるいは修正されることを目的としているのであるが、人事をつくすだけである。

その未完の一端を下に開示したい。これから推敲をかさねて、近く

研究者に公表することによって、有力なツールになると確信している。

\*\*\*\*\*

中国出土の元青花瓷資料集成

1. 内蒙古自治区烏蘭浩特市郊窖藏：  
\*青花獸文碗、高7.6、口径16.4、底径5.7cm。青花の色沢は、青に部分的に灰色が混じる。内面口沿に4花を含み草葉唐草文、内心に1怪獸文があり、鼻は象首形・身体は虎豹形の奔馳する姿であり、その上に如意形雲文を描き、青花瓷では類例の少ない図である。外面上部に纏枝蓮文、下部に変形仰蓮文をめぐらす。



写真5. 内蒙古浩特市郊窖藏

\*青花竜文高足杯：高9.5、口径10.4、底径3.6cm。外反口沿、深腹、脚はわずかに外に開く。内沿に巻草文、内心に三爪竜文、外壁に蓮華唐草文、高足に蕉葉文を配している。

\*\*\*\*\*

こういう形式で、遺跡ごとに出土品の詳細に集成することによって、中国出土品の実態を、正確に把握することが可能となる。ここから、西アジアに輸出したものと、中国国内で消費されたいわゆる「内需品」との相違を理解できることとなる。

第2に、日本国内出土の元青花瓷調査である。すでにその一端について触れたが、全国約30箇所の遺跡出土品を、これまた悉皆的に調査する計画である。大部分は1遺跡1個体であるが、大量に発見されている遺跡もある。

沖縄県の久米島・具志川グスク跡の予備調査を今春おこなったが、じつに100片以上の元青花瓷が、ここから発見されている。この膨大な数に圧倒されているが、すべての破片を実測し、図上復元することを計画している。これもまた、かなりのエネルギーを要する仕事であるが、これによって、中国の出土状況との比較研究が可能となり、古琉球の位置づけを再認識でき、そこから得られる成果に期待がふくらむのである。大型品は、わが国には少ないであろうとする予見は覆るであろう。

第3は、東南アジア出土品の調査である。この地域からは、小型壺で、胴部に菊花唐草文を略式描写するタイプのものが多く、大型で複雑・精密な描写を施すタイプ、いわゆる至正様式は少ないとされている。しかし、断片的にみられる資料だけでも、相当数の大型で、本格的な施文の元青花瓷がある。

この地域で悉皆的というのは無理であるが、可能な限り資料を集

成し、わが国および古琉球をふくめた、中国以外のアジア地域の様相を理解したい。

第4は、西アジアに保有されている、すなわちトプカブ・サライ、アルデピル・シュライン、デリー・トゥグルク宮殿跡を中心として、その他アラビア半島の港湾遺跡などから出土する元青花瓷を含めての資料調査である。

すでに、トプカブ・サライの元青花瓷については、1997年に、専修大学長期国外研修の際に調査することができ、その他は実見することは難しいかもしれないが、報告書などでの理解が可能である。

これによって、いわゆる西アジア方面への「外注品」の器種・文様構成を厳密に把握したいと考えている。

イングランドの博物館などに現在保有されている元青花瓷は、20世紀の前半に、インドから将来されたとされるものが多数含まれており、かつて私は調査した。従来、元青花瓷の西アジア方面への輸出の側面が強調されているが、南ア

ジアの位置づけも課題のひとつである。

さらに、すこし触れたが、イタリア半島保有の輸入元陶磁器の興味もつきない。14世紀前半からヨーロッパの中国陶磁器の輸入の門戸は、イタリア半島にあると推測している。

第5に、内外美術館収蔵の元青花瓷資料の集成を継続しておこなっているが、これには少なくとも2つの意味で意義がある。1つは、出土品では見られない器形・文様などの欠を補い、元青花瓷の全体像を理解するうえで重要である。2つめには、出土する小破片が完形品のどの個所に該当するのかをさぐるうえで、おおいに役立つのである。

1990年代から欧米美術館所蔵資料の収集とその整理につとめ、すでに約300個体の画像入力を終了している。

これら5つの方向からのアプローチに加えて、内外の関係主要論文の研討、史料、たとえば、南宋時代の著作とされている蔣祈『陶

記』の基礎的な理解などにつとめたい。

これらを総集した研究テーマ「景德鎮窯産品の研究—元代青花瓷・青白瓷の基盤研究」を、ここ数年間にわたり実施していきたいと考えている。

上記した5つのアプローチは、特別なアイデアでもないし、きわめてオーソドックスな方法であり、だれでもが気がついていることである。ただし、これを実現するためには、膨大なエネルギーの集積を要するのである。

人文科学研究としての中国陶磁史は、それを使っていた、あるいはそれに関連して仕事をしていた人々への深い洞察力が必要である。しかし、そこに至るには、根底に製品自体の研究への沈潜がなければ空虚な、絵空事になるであろう。必要なのは、アイデアとともに、学問的な情熱の爆発である。若人のなかで、このテーマにすこしでも関心があれば、挑戦してくれることを、ひそかに願って止筆する。

(2004.8.20)



パリ・ギメ美術館正面ヨーロッパにおける東洋美術の収集で知られている

## 1 すべての教員が性教育を担うのですが…

日本の学校教育では、性教育は各教科を含めて学校教育全体で教えることになっています。けれども、性教育に関しては全く教わらなくても教員免許が取れるような制度になっているのも事実です。教職課程では性教育に関する科目はめったに開講されません。

性教育についての技術や力量を身につけるには、自分で独自に勉強することになりますが、なかなかスムーズにいくものでもなく、実際には性教育ができる教員は少数派のようです。というよりも、教員自身、自分が性教育をするものだなんて思っていない場合が圧倒的かもしれません。

ところで皆さんは、どのような性教育を受けましたか。

どういう時間帯の授業でしたか、特別に設定された授業でしたか、理科、保健体育などの教科ですか、あるいは道徳や特別活動の時間でですか。

誰が担当していましたか。担任の先生ですか、同じ学年の他の先生ですか、養護の先生(保健室の先生)ですか、それとも外部の講師の人ですか。

性教育ができる教員が少ない中で、実施に関してはそれぞれの学校でいろいろ工夫がされているようです。

学校全体で児童生徒の入学から卒業までの全校のカリキュラムを組んで、教科間の連携やクラス、学年間の連携を念頭に置いて実施している学校もあります。たまたま私の子供たちが通った町田市の公立小学校は、そのような形態をとっていました。中心になる教員が全校のカリキュラムを組んで、全教職員でそれを実施する形態で

す。

養護教諭が一手に授業を引き受けている学校もあります。数としては、この形態は多いのではないかと思います。年に何回か学年ごと、クラスごとなどに特別カリキュラムの授業を行う形です。この種の授業を外部講師が行う場合もあります。

教科の中で行なうパターンとしては、保健体育や家庭科、理科、科学などの授業時間に教科の担当教員が行ないます。わざわざ性教育と謳わずに行なっているかもしれません。学校として特に性教育のカリキュラムを立てない場合には基本的にこの形態になるでしょう。

## 2 ところで性教育って…

ところで、性教育というのはどういうものなのでしょうか。生殖の仕組みや身体の二次性徴について習うことでしょうか。性感染症の予防や避妊の仕方を習う授業でしょうか。これらも含まれますが、性教育はそれだけではありません。

性教育は「セクシュアリティの教育」だというように言われます。ではセクシュアリティとは何なのだろうということになります。

セクシュアリティというのは、簡単にいえば、自分がどのように物事を見て物事を感じてどんな気分になるかということ、つまりそれぞれの人の喜怒哀楽の仕方です。確かに恋愛や性行動に特化してもう少し狭い意味でセクシュアリティと言われている印象もあります。けれども、その身を奮わせるような心の動き—たとえば恋愛や性行動など—をどういう状況と経緯で人々が体験するかとなると、その形態は実に多様です。その多様性を考慮すると、やはり喜怒哀楽の仕方という緩やかな定義づけにな

らざるを得ないという事情もあります。物事に対する感じ方や考え方は皆違いますから、セクシュアリティはその人そのものです。

例えば同じ出来事や人に遭遇しても3才の自分が感じるであろうことと、20才の自分が感じるであろうことと、60才の自分が感じるであろうことは同じではないと思うのです。年齢でその出来事や人物との関係が変わってくるからです。性別でも変わってくるでしょう。さらに、同じ年齢や性別でもその人のそれまでの経験などによっても一人一人違ってきます。

何れにしても性教育は、それぞれの人がその思いをどれだけ充足させながら生きることができるといふことに関心を持つものです。

充足したセクシュアリティを生きるためには知っておくべき事柄もありますし、考えなければならぬこともあります。自分が何者であるかを自覚し、社会や身近な人々との関係について理解し、自分をそこに当てはめて適切な行動を取るといふ一連の流れが構成されなければなりません。しかし自分の喜怒哀楽が周囲の人には伝わらないということもありますし、その気持ちが社会に受け入れられずに、異端視されたり犯罪視されたりすることもあります。ですから自分の喜怒哀楽を理解するためにはただ盲目的に周囲を理解するだけでは完結せず、そのプロセスで物事を分析したり時には批判的に見たりする力も必要です。

## 3 サイエンスの性教育、でもちょっと意外 —イギリス—

日本では学校の自主的な対応にゆだねられている性教育ですが、国によっては実施がもっと厳格に

決められているところもあります。ヨーロッパにはそのような国がいくつかみられます。イギリスでは1994年度から、中等学校で性教育が義務化されました。義務化されるまでは、今日の日本のようにそれぞれの学校や個々の教員で方法や内容はさまざまでした。義務化に際して、特に保守的な人々から反対が唱えられたりしましたが、子ども達が過剰な性情報に翻弄されて「無知」のまま放置されているという認識は社会に支配的で、制度化がなされます。反対派の親の意向に配慮して、親の意志で性教育から子どもを退席させることができる様にしましたが、全国統一のカリキュラムの中の「サイエンス」で扱う部分に関しては、どの生徒も受けなければならないということになりました。

私は、ちょうどこの時期に1年ちょっとイギリスに滞在しました。性教育の義務化1年目の学校に、私の子どもたちは通ったわけです。

さて、「サイエンス」で行う性教育はどんなものだろうと、娘のクラスに毎時間出席させてもらいました。その学年(year7=日本でいうと小学校5、6年生に相当)に配当された単元は「成長 (Growing up)」で、身体の構造や各組織の名称と機能、生殖の仕組みの理解などを内容とするものです。教科書の導入部分は次のような問いで始まっています。

「赤ちゃんを産もうと決める理由は何かだと思いますか。子どもを持と

うとする理由の幾つかが下に書いてあります。あなたが良い理由だと思うのはどれで、良くないと思うのはどれですか。グループになって話し合ってみましょう。あなたが一番納得できる理由から順番に並べてみるとどうなりますか。」この問いに続いて、カップルが答えた9つの「理由」が吹き出し風にアレンジされて書かれています。

- 「子どもがいないと、きっと人は変だと思うから。」
- 「息子をつれてサッカーの試合を見に行きたいから。」
- 「子どもを育てることはやりがいのあることだから。」



「私たちが年とったら、子どもたちが面倒を見てくれるから。」

「私たちはただ、子どもが大好きだから。」

「私たちは家族を育てていきたいから。」

「子どもを持つと、私たちはより親密になれるから。」

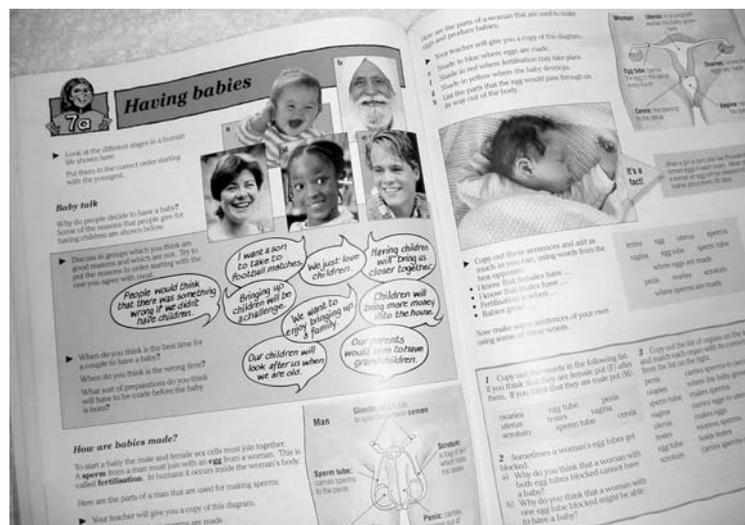
「子どもは将来、家にもっとお金をもたらすようになるから。」

「私たちの両親が、孫の顔を見るのを待ち望んでいるから。」

ここから先生のコメントやディスカッションが始まり、知識の学習につながっていきました。わたしが当初想像していた「サイエンス」とは大分印象が違いました。何種類かの教科書を手にしてみると、生物学的な知識のみに限定した「シンプル」な教科書がある一方で、ここに紹介したものに類似するものも複数でした。

社会生活の中での価値観と無縁の場所で性教育はできないと私は考えていますので、必修部分が「サイエンス」に限定されたイギリスの制度に少々消極的評価を持っていましたが、関係者のこの「工夫」には正直一本とられた気がしました。

教職課程をとっておられる皆さん、性教育にチャレンジしてみませんか。



# 教職課程



# 「情報」と「教育」にまつわるアレコレ

ネットワーク情報学部 助教授 香山 瑞恵

はじめに：

教職課程に所属していた卒業生から久しぶりのメールが届いた。「就職先企業で研修期間が終了し、人材開発部門に配属された。初めての業務として社内e-Learningの効果に関するレポートを作成することになった。どうしたらいいか」といった趣旨であった。企業内教育における情報化の浸透速度は極めて早い。しかし、その浸透速度に見合うだけの人材能力開発がなされていない。教育を情報化して展開する部門は用意されても、それを適切に運用・管理できる人材が少ないのである。

学校組織では、どうだろうか。

専修大学関係者のうち、高等学校教科「情報」、情報教育、そして教育の情報化に関わる人材はどの位いるのだろうか。高等学校教科「情報」に教諭あるいは教員として携わる方は今年で延べ6名となる(公立3名、私立3名)。また、教科研修生として上記教科に関わる在校生は延べ人数で23名となる。また、本学において情報教職に関わる諸先生方もその数に含まれる。情報教育に関わる方々は、本学所属のほとんどの教員がその範疇に含まれる。また、卒業生のうち教職についておられる方は全員がこの対象となるだろう。さらに、教育の情報化に関わる方々は、本学の教員のみならずほとんどの職員の方々も含まれる。さらに、卒業生に関しては、前述の教職従事者に含め、IT関連企業の文教部門に所属している方、教育サービスや教育コンテンツ開発を主たる業務とする企業の方など、多岐にわたるであろう。あなた自身も関係者なのかもしれない。



本稿では、情報と教育というキーワードを掲げ、教育の情報化・情報教育・高等学校教科「情報」について、それらの内容と、それぞれとの関係とを概観したい。

## 教育の情報化と情報教育：

教育の情報化は1999年に提案された。政府のミレニアムプロジェクトの一環でもある教育の情報化とは、①学校設備のIT化、②教員のIT活用力の育成、③ITを利用した教育のためのコンテンツ開発を指す。主たる事業は7項目にわたる。最も声高に叫ばれたのは、公立学校のコンピュータ整備・インターネット接続等に関する事業である。以下にその内容を示す。

- 2001年度までに、全ての公立小中高等学校、盲・聾・養護学校等がインターネットに接続できるようにする。
- 2005年度を目標に、全ての公立小中高等学校等が、各学級の授業においてコンピュータを活用できる環境の整備を行えるようにする。

一方、情報教育とは、児童生徒の「情報活用力」を育成するための教育を指す。この概念は、1988年の学習指導要領改訂においてその重要性が指摘された。それを受け、1990年に文部省(当時)から「情報教育に関する手引」が提案された。ここでの考え方の柱を以下に示す。

- 情報の判断、選択、整理、処理能力及び新たな情報の創造、伝達能力の育成
- 情報化社会の特質、情報化の社会や人間に対する影響の理解
- 情報の重要性の認識、情報に対する責任感
- 情報科学の基礎、及び情報手段の特徴の理解、基本的な操作能

力の習得

各教科の理解の手段として、さまざまなソフトウェア、IT機器の活用に重点が置かれていた。また、人間や社会との関わり合いに関する内容がアウェアネスとしてのみ扱われ、その本質に言及する機会は設けられていない。さらには、情報の科学的な見方の育成や情報を工学的観点から考察する活動は、皆無に等しかった。

1998年の学習指導要領の改訂に伴い、2002年には新たな手引きが示された。新「情報教育に関する手引」—情報教育の実践と学校の情報化—である。2003年からの新学習指導要領の完全実施を迎えるにあたり、先の手引きを全面的に改定した内容となっている。ここでは、情報教育とは以下の2つの営みであると定義されている。

- 総合的な学習の時間、技術・家庭科、情報科などにおいて、児童、生徒の「情報活用能力」を育成すること
- すべての教科において、教員が授業の道具として、ITを使って、授業をわかりやすい授業、魅力ある授業にすること

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」とは、「情報活用の実践力」、「情報社会に参画する態度」、「情報の科学的な理解」の3つの観点に整理される。これらの目標はそれぞれが独立したものとして扱われるのではない。一連の学習活動の中で、相補的かつ相乗的に達成されるように関連付けられて、指導されなければならない。図1に3つの目標の関係を示す。現象とその背景にある原理、あるいは結果とその基となる法則に対する予測、思考、新たな工夫の創造を行う能力を育成するために有機的かつ機能的に関連し合うこと

が大切なのである。この目標は、ひいては高等学校普通教科「情報」の目標ともされている。

**高等学校での教科「情報」：**

高等学校段階の情報教育の一環として、教科「情報」が2003年度から実施されている。特に、普通教科「情報」は、生徒が情報技術に関する基礎的な事柄を体系的に学ぶ初めての機会となる。普通教科「情報」の目標は、『情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる』ことにある。生徒に対して、作品制作や調査活動、課題解決、討議等の多様な学習活動を求め、その過程の中で、論理的思考力やシステムの発想、創造性の獲得を期待する。そして、情報に関する原理・原則や仕組みへの確かな認識を基礎として、情報社会で健全に生きていくための問題意識と情報活用能力を育成していくことが求められる。最も重要視されるのは、

問題解決力や筋の通った表現・評価力の育成である。ここでは、客観性と主観性、論理と直感、シンボルとイメージといった人間の持つ本性的な能力をバランスがとれた形で滋養していこうという目的が多分に意識される。言語と道具を如何に旨く使いこなしていくか、そしてそのプロセスの中で、各種情報通信メディアが持つ科学的、技術的、社会的、文化的、そして人間的な内容をトータルに学んでいくのである。

教科「情報」は、ある意味では、人間が持ちうる総合的な問題解決能力の育成にあるともいわれる。そういった面で、他教科の教育目標と重複する部分も少なくない。しかしながら、それを批判するのではなく、“情報学的な見方、捉え方、考え方”を情報科学や情報工学、情報システム学、情報文化論、社会情報論、情報倫理といった視点を積極的に取り入れていくことによって、より教科「情報」の特色を出すことも可能であろう。そういった意味においては、担当される教師の資質、力量に負うところが大きい。

おわりに：

本稿では、教育の情報化、情報教育、および教科「情報」に関して概観した。教科「情報」に関する大きな誤解は、本教科を教育の方法・道具論として捉えてしまうことである。本教科の本質は、科学・技術立国としてのわが国の一端を担う者が、獲得すべき科学・技術に関する基礎学力・応用学力を“情報”といった観点から再構築していくための新しい教科として位置付けたところにある。彼らに、本教科を通じて、科学・技術それ自体の面白さ、知識や知恵を構成することの面白さ、健全な人間社会に参画し貢献しうる充実感を味わい、さらに達成感、責任感、自律心といったことの重要性を経験してもらいたい。同時に、教科「情報」、そして広く情報教育に関わる教師には、このような教科を展開することの楽しさ、難しさと同時にやりがいの大きさを感じてほしい。

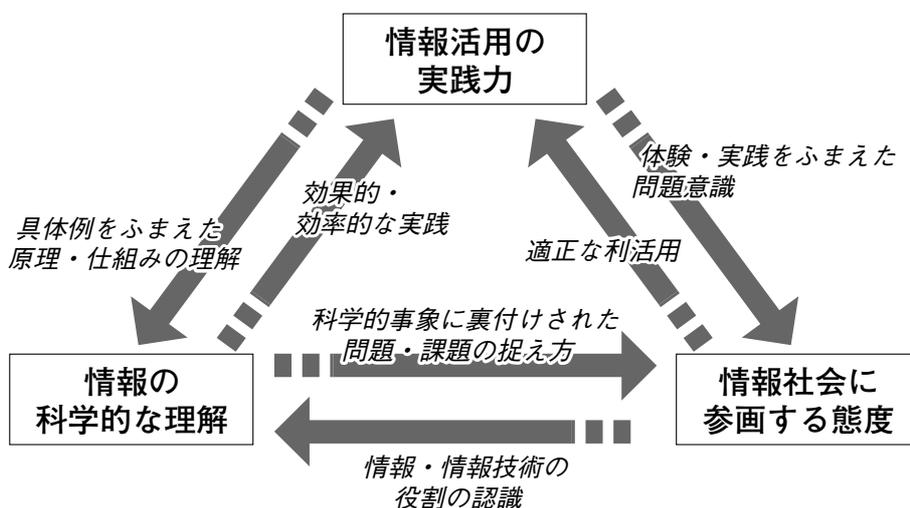


図1 情報教育の目標

# 卒業生から (社会)

愛媛県松山市立西中学校教諭 大田 雅哉 (平成2年 法学部法律学科卒業)

専修大学を卒業し、地元愛媛県に帰って教職の道を歩み始めて15年目になりました。現在、松山市内の中学校に社会科の教員として勤務しております。15年という月日は過ぎてみれば早いもので、こんな私も中堅どころとなってきました。

今までの教員生活を総括してみますと、大きく2つのことを感じています。1つは、生徒や保護者との触れ合いを通じて多くの人的財産ができたことです。毎年毎年新しい出会いがありますが、生徒の心は本当に純粋で、教師を信頼し、一生懸命に学びスポーツに励もうとしています。きらきらとした目を輝かせ、心の内を語るその姿にはかけがえのないつながりを感じたことが多くあります。また、学級や部活動、地域活動を通じて保護者の方々とのつながりもできるわけですが、我が子のみならず学校や地域のために献身的に活動される方の姿を見ていると、私自身も子を持つ一人の保護者として見習うべきところが多々あります。そして、一度できたつながりがそれ以後も脈々と継承されていき、人的財産が広がり深まりをもってきていることに教員の大きな魅力を感じます。

しかし、このような理想的な教員生活だけではないことも事実です。2つめは、生徒指導上の諸課題です。私の15年の教員生活のうち、現在も含めて6年間は生徒指導主事として学級担任をもたずに生徒指導という校務分掌に奔走した日々でもあります。いじめや不登校、暴力行為をはじめとした様々な問題行動等の生徒指導上の諸課題に日々対応を迫られる職務です。情報機器やメディアの急速な発達によりかつてのような都市

部と地方でのタイムラグがなく、その中で生徒指導上の諸課題も都市部と何ら変わりのない現象がここ愛媛でも起きています。どの先生も一生懸命に生徒や保護者、地域、学校のために努力を重ねてはいますが、信頼関係を構築することが困難で、大きな問題に発展し解決が図られにくい問題も多々あることが現実です。学級経営をはじめとして学校行事の運営、各自の校務分掌の役割遂行、そして日々の問題行動への対応等、本当に教員の生活は多忙を極めています。

しかし、私たちの教員という仕事は、作物や製品を作るのではなく人との触れ合いによって心をつくるものだと思います。生徒にとって関わる教員の影響力は多大なものがあります。数年ほどの学校生活で結果を見出せなくても10年、15年後になって分かり合えることもあります。私は教員の資質として、生徒の将来にとって良かれと思って指導や支援を続けていける信念と忍耐力が求められていると思います。当然としてこの土台には、人間の魅力や教科指導力、適切な判断力などが備わっていないならばならないことはいうまでもありません。

これから教員を目指す学生の皆さんには、日本の教育を背負っていくという強い使命と責任感、明るい未来展望をもって学習に励んでいただきたいと思っています。教師という仕事はあなたの



人生にとって間違いなくすばらしい人的財産が構成され、それによってより豊かで充実した生活を実現させてくれるものだと思います。皆さんの中には卒業したらたった2週間で実際の教壇に立つことになる方もいらっしゃるでしょう。今大学で学んでいることを真摯に吸収し、日々自己研修に励み、信頼できる大学の先生にしっかりと教えを請うことが大切です。私も、教員養成課程で専修大学の蔭山教授にはひとかたならぬ御尽力をいただいて教員になることができ、いまだに深い交流をさせていただいております。人的財産を大切にし、母校からすばらしい教員が多教育っていくことを期待しております。



# 卒業生から (国語)

茨城県立土浦第三高等学校教諭 渡辺 克也 (昭和62年 文学部国文学科卒業)

教員となり18年、気がつけば「中堅 (中年?)」と呼ばれるようになっていました。教職を志望する皆さんに、教員として私が抱えている問題点や毎日の仕事の様子等をお伝えします。目標実現のための何らかの参考にして頂けたら幸いです。

## 1. 最近の生徒に関して

最近しばしば耳にする「学力の低下」という言葉。私の実感は「全体的な学力低下というよりも、学力下位層のボリュームの増加、上位層から下位層までの学力格差の拡大」というものです。

「学校週5日制」「新教育課程による教科内容の削減」等を背景として、学校と学習塾との役割分担 (棲み分け) が進んできました。高い合格率をうたい文句とする予備校や学習塾は、「最低の努力で最大の結果」を目指し様々なプログラムを用意しています。本来、学習は学習者自身が試行錯誤の中でその方法や意味を見つけていくべきものであるはずですが、全てお膳立てされ、手取り足取りの指導で身に付く「学力」とは一体どんなものでしょうか。

そういった受け身の学習ばかりに慣れさせられ、自学自習力が減退している生徒たちから、高校での一斉授業を基本にした速いペースの授業に対して「どうしたらいいのかわからない」という声が上がってきて当然なのかもしれません。

自主的・計画的な学習スタイルを確立出来ず、学習習慣が未定着のまま学習が進むため、自学自習力を身に付けた上位層と、下位に定着した生徒という現在の「学力の二極化」が生じているのではないかと考えます。このことは『教育課程審議会答申 (H10)』において「自ら学び、自ら考える力を育成する」という点が強調されていることで逆説的

に論証されていると考えます。

## 2. 国語の授業について

そういった「時間をかけて自分から学習することを嫌がる傾向・分かり易さばかりを追求する傾向」を持つ現代の生徒達にとって、特に古典の学習は苦痛以外のなにものでもありません。

表1は、昨年茨城県内の高校3年生349名を対象に実施した「古典学習に関する意識調査」の一部です。ここから以下のことが明確になります。

表1 「古典学習に対する意識調査」 (一部のみ記載)

1 古典が好き	63名	18.1%	古典は嫌い	154名	44.1%
2 好きになったのはいつ頃からですか?	嫌いになったのはいつ頃からですか?				
中学	16名	30.1%	中学	67名	50.8%
高1 1学期	9名	20.6%	高1 1学期	32名	27.3%
高1 2学期	1名		高1 2学期	4名	
高1 3学期	1名	17.4%	高1 3学期	0名	12.1%
高2 1学期	1名		高2 1学期	11名	
高2 2学期	3名	31.7%	高2 2学期	3名	9.8%
高2 3学期	1名		高2 3学期	2名	
高3 1学期	17名		高3 1学期	13名	
3 家で予習をしますか?	自分の学習方法はありますか?				
毎日欠かさずやっている	7名		ある	124名	
時々やっている	130名		ない	225名	
全くやっていない	212名				

ア 「好き(18.1%)」よりも「嫌い(44.1%)」が2倍以上である。

イ 嫌いになった時期は、圧倒的に中学から高校1年1学期にかけてが多い(75%)。

そのため古典学習の必要性を感じていないので、学習方法も当然確立していません。

この現状を前提として教材や指導方法を再構成することが必要です。歴史の過程の中で喪失してしまった古人の鋭敏な感受性や思考方法を伝えることはとうてい実現できない目標なのではないでしょうか。

## 3. 普段の勤務状況について

現在の勤務校は2校目です。この3月に卒業生を送り出し、4月からは3年生の古典の授業(週4時間ずつ)を担当しています。校務分掌は進路指導部長と国語科主任です。授業以外の時間はほとんどが進学先か

らの来客の対応、進路資料の整理等で終わってしまいます。放課後は進路相談に来る生徒へのアドバイスや課外授業に追われ、気がつくとも一日が終了するという毎日です。土曜日にも実際には課外授業のため出勤です。その他には、茨城県高等学校教育研究会国語部の事務局や古典研究委員も兼任しております。

新採研修と十年次研修の先生方たちと一緒に勉強する機会がありました。そこで気づいたことは、授業以外

の雑務に振り回されている現実です。多くの先生方が授業に集中できずにいるなど感じました。「学校週5日制」となったにも関わらず、従来からの業務を見直してないばかりか、学校評議員制や情報公開等新たな社会的要請も加わり、教員

としての本来の業務であるはずの「授業」に一番しわ寄せがきている気がします。次々と迫る課題に追われ進むべき指針を見失ってしまいそうになります。しかし、目の前にいる生徒の真剣な眼差しに応えることが喜びであり、明日への活力です。一緒に頑張っていきたいと思います。

## 資料

「学力多層化への対応」ベネッセ教育総研『VIEW21』2004,9

「高校古文入門期の授業について」茨城高校教育研究会国語部『研究紀要 第40号』



2列目中央でトロフィーを手にしているのが渡辺先生

# 卒業生から (英語)

新潟県立新潟西高等学校教諭 水澤 一洋 (平成14年 文学部英米文学科卒業)

## 1. 教員としての生活

ある一日。5時に起床。お弁当を作りながら、残り物で朝食を済ませる。1時間NHKの語学番組で英語の勉強をする。7時に家を出発し、学校に到着。まだ生徒も先生もほとんどいない学校で、職員朝会までの1時間を読書に充てる。日中は授業を行いながら、次の授業の準備をしたり、その他の仕事を済ませる。急な仕事を頼まれることもあるので、早めに授業の準備を済ませておく。空いた時間に教頭先生より、校内研修をしていただく。時間を見つけて初任者研修の資料に目を通しておく。昼休みに、小論文の添削指導を担当している生徒が尋ねてくる。夕方、部活の指導。7時半に帰宅してから夕食。勤務時間内で間に合わなかった授業の準備に充てる。11時就寝。

教員になって5ヶ月。学校で教える・働くのが初めての私にとっての一日はこのように過ぎていきます。他に校外での研修があり、研修所で講義を受けたり、ワークショップ形式で同期採用の教員と話し合いをもったり、高等学校以外の教育機関へ出向いたりもします。校内では、親切で非常に明るい諸先輩方に囲まれ、助けていただいております。他校で勤務している同期採用の教員とも、悩みを共有し、励ましあったりしながら、研修に励んでいます。

## 2. 教科指導

現在私は一年生の英語ⅠとオーラルコミュニケーションⅠの授業を担当しています。私自身が教員一年生ということで、授業は日々実験の繰り返しです。先輩の授業(英語に限らず)を見学させていただいたり、本を読んだりしている



教壇に立つ水澤先生

いろいろなやり方を試しながら、自分の授業で使える選択肢を増やしたいと思っています。私としては、できる限り一方的な講義になるのではなく、生徒に口を動かしたり手を動かしたりさせながら学習を深め、繰り返し訓練をさせたいと思っています。少し大袈裟に言うと、練習をして着実に力がつく喜びを味わってもらえるような授業にしたいと思っています。そういう意味では、スポーツに似ているでしょうか。

一方で、自分の理想としている授業と、今の自分ができる授業の間に埋め難いギャップがあることも事実です。つまり「やりたいこと」と「できること」の間に差があるわけです。日々の授業の準備だけに追われて、自分自身の勉強や訓練がおろそかにならないようにしたいと思っています。そのため、忙しい日々の中で自分の時間を確保することが重要だと考えています。一日のスケジュールを予想できる範囲で計画し、柔軟に対応しながらも、きちんとこなしていけるようにしたいと思っています。

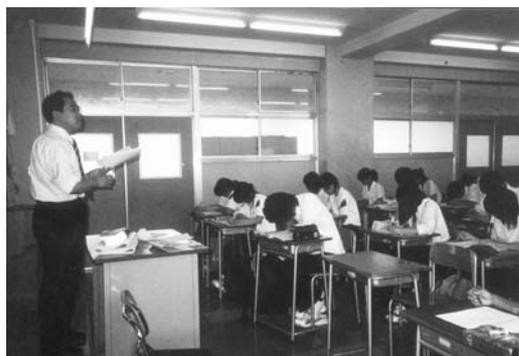
## 3. 生徒のこと

本校の子どもたちは非常に素朴で大人しい子が多いようです。少しのん

びりしている子が多いでしょうか。また、面倒くさいことをしたがないという特徴もあるようです。赴任当初、先輩の教員から「生徒に火をつけるのが一番大事な仕事だ」と言われました。つまり生徒にやる気を起こさせるということに興味があります。確かに、部活に熱心な生徒がいる一方で、部活に入るでもなく勉強に燃えるわけでもないという生徒もいます。しかし、一学期に行なわれた体育祭で見た応援合戦(=仮装ダンスパーティー!?)のエネルギーは並大抵のものではなく、そのときばかりは驚かされました。そのエネルギーを日々の学習や部活動に、エネルギーの出し惜しみをすることなく、全力で日々の生活を送って欲しいと思っています。

## 最後に

現在の私を育ててくれたのは専修大学で過ごした6年間だと思っています。様々な角度から私を鍛えて下さった先生方には大変感謝しておりますし、大学を離れてみて日に日にその想いは強くなります。教職を目指す在校生の皆様のご健闘をお祈りしております。



授業風景

# 卒業生から (情報・商業)

東京都立晴海総合高等学校教諭 池田 宏史 (平成7年 商学部商業学科卒業)

現任校の東京都立晴海総合高等学校は、平成8年に開校した、東京都初の全日制総合学科高校です。総合学科ですので、科目の種類も多く、平成15年度は162科目、485講座、領域も多岐にわたります。科目選択上の学習のまとまりを「系列」と呼んでいますが、本校では情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、社会経済、自然科学の6つあります。1年次には自分自身の生き方や進路について考えを深め、それをもとに2、3年次の履修計画を立てます。2、3年次には自己実現を目指し、履修した科目を責任を持って学びます。

校務分掌は相談部です。「相談部」は他の学校でいうところの進路指導部です。生徒を主体に支援、助言していく方針を「相談部」という名称に託したとのことでした。

皆さんは卒業後の仕事として教職を検討されていることと思いますが、なぜ教職を志望されたのでしょうか？そして、どんな教員生活を想像していらっしゃるのでしょうか？

自分が生徒だった時の先生とのよい思い出を胸に教員になりたい、と考えているのなら、その期待は裏切られることがあるかもしれませんが、想像していただきたいのですが、自分が教員として関わる生徒達は、自分と同じように教員と良好な人間関係を築こうとする人たちとは限りません。あなたが普段街を歩いているときやテレビの中で、あまりの非常識ぶりに驚いてしまうような人が、生徒の中にいるかもしれません。あなた自身が非常識の被害を被り、自分の人生経験や努力して習得したスキルがぶっ飛んだ上で、人間としての在り方生き方を示していくことに

なるかもしれません。また、教育実習での楽しい思い出を胸に教員になられたとしたら、教育実習生が生徒にとっても現場の教員にとっても「お客さん」だったことに気づかされるでしょう。

我々教員を取り巻く環境は非常に難しく厳しい状況にあります。世の中が混沌としていて先行き不透明、価値観が多様化している中で、どのような目標を設定し、どのような尺度で成果を測るのか。また、いかに成果を出すか。生徒、保護者、地域、教育委員会、行政といった関係者に対し、どう説明責任を果たしていくか。生徒との関わりだけで仕事になるというわけではありません。

それでもあなたは教職に就きたいですか？

不愉快に感じた方もいるかも知れませんが、もう一度自分自身を見つめ直し、教員の仕事内容を把握していたか、厳しい部分について覚悟ができているか、考えていたただきたいのです。よく、求職関係の雑誌やパンフレット、実際に働いている人の声では、やりがい

やりがいや憧れなど吹き飛んでしまうほどの厳しさがありました。そんな経験から生徒には「君のやりたい仕事のイメージと、なりたい職業の仕事の内容が一致してる？もう少し研究してみようよ。」と促したり、「君のなりたい仕事は君の想像していること以外に、こんなつらいこともあるよ。それでもいい？」と覚悟させるようにしています。

私は、11月23日の教育学会には私なりの「Passo, a Passo,」の中の一步として、毎年出席しています。発表や講演を聴き、懇親会で教育に関わっているいろいろな立場、年代の方々のお話を伺い、それを自分の考えとすり合わせたり、自分の意見を諸先輩方に聞いてもらったりしています。教育学会に主体的に参加することで、自信を深めたり、なくしたり、教職への想いが一層強くなったり、教職は向いていないなと感じたり、人それぞれ、いろいろと感ずることがあると思います。教職課程を履修している皆さんにとっても、情報収集活動という意味で、よい機会だと思います。



# 教員採用試験体験記「東京都の教員を目指して」

東京都立八王子東養護学校教諭 佐々木 究 (平成14年 法学部法律学科卒業)

## 1. 東京都である理由

私が東京都の教員を目指した理由は故郷の八丈島で教壇に立ち、八丈島から世界に通用する人材を輩出したいとの思いからだ。東京都には全国から受験者が集まり、その総数は毎年1万人を超している。なかでも中高共通枠の専門科目の倍率は数十倍の難関となっている。実際に私が受験した平成15年度の中高公民は79.8倍の高倍率だった。しかし、東京都の教員として採用されなければ八丈島の教壇に立つという夢は実現できない。何度でも挑戦しようと思い決めていた。30歳までの採用を想定して、それまでは民間企業への就職や海外で活動を通して幅の広い人生を歩もうと考えていた。教員への夢が実現しなければ中国語や海外経験を生かした仕事に就こうと考えていた。実際には日本語学校への1年間の勤務を経て現任校への採用となった。

## 2. 東京都教員採用選考(1次試験)

教員採用選考は東京都を2回しか受験していないが、1回目も2回目も一般教養、専門教養とも同程度の出来だった。ともにマークシートでの択一式なので、一般教養は8割程度。専門教養は6~7割の正解だったのではないと思う。教職教養は時事通信社の「教職教養パスライン」を使って勉強した。教職教養は勉強し始めて初めて知る内容ばかりだったので専用の問題集を用意して勉強することをおすすめする。一般教養や専門教養は特に勉強はしなかった。新聞を読むことが趣味で、日頃からよく読み込んでいたので一般常識や公的内容には自信があったためだ。問題は論文試験だった。1回目は字数を埋めるだけで精一杯。考えがうまくまとまらないまま試験時間を終了した。そこで次の年には受験時間90分のうち、



中国留学中の佐々木先生

30分は構想だけを練り、残り60分を使って一気に書き上げた。90分での1500字は短いようで長い。書く内容を組み立てないと途中で筆が止まってしまう。はじめの構成がしっかりできていれば後は順番に書き込んでいだけなのでそれほど時間はかからない。落ち着いてしっかりと構想を練ってから書くことが重要だろう。

## 3. 東京都教員採用選考(2次試験)

2次試験は個人面接、集団面接となるが、私は1次試験合格と同時にインターネットを駆使して2次試験に関する様々な情報を収集し、試験の様子を知ることができた。おかげで当日も緊張することなく試験に臨むことができた。試験日までには面接表への記入、自己アピール文や学習指導案の準備が必要となる。個人面接では冒頭に5分程度の模擬授業をしてから、学習指導案の説明と面接表に基づいての面接があった。面接表に記載したことは一通り質問されるので、記載した内容に対しては自信をもって答えられるよう準備が必要だ。

## 4. 学校での面接

私の場合、補欠合格だったため、学校での面接は3月31日にあり、そのまま4月1日付の採用が決定となった。前の勤務先である日本語学校の校長には教員採用について十分説明し、急な退職について

も事情を理解してもらうことができた。社会人として、周囲への配慮も必要だろう。もし、島嶼や養護学校への採用面接となった場合も迷わず受けることをおすすめする。どの教育現場も特長ある教育実践がなされ、勉強になるし、東京都の教育職員として勤務することは講師や産休代替教諭として勤務するのは身分も職責も全く異なるからだ。

## 5. 養護学校での勤務

養護学校で勤務して2年目を迎えたが、日々が勉強の毎日だ。個々に違う生徒の障害の様子を知り、生活や学力の実態を把握し、本人が必要とする日常での生活援助しながら授業を展開していかなければならない。生徒によっては常に健康状態や安全管理の配慮が必要な生徒もいる。生徒が学校にいる時間は一時も気が休まることがない。私は採用が決まってから初めて養護学校を訪れたのだが、はじめは言葉も発せず、反応も返さない生徒にどう接していいか正直戸惑った。しかし、担当する生徒としっかり向き合って教育活動を実践できるときや生徒が成長する姿を目にするときには教員としての楽しさを実感している。今後どのような学校で勤務しても養護学校での経験は教員人生で大きな財産となることだろう。みなさんも教員になるまでに豊かな人生経験を積み、教員として生徒の前に立たれるよう祈っている。



中央が佐々木先生

# 教員採用試験体験記

新潟県佐渡市立赤泊中学校教諭 村山 乃笛 (平成13年 文学部国文学科卒業)

この4月から、教員として2校目になる佐渡市立赤泊中学校に勤務しています。慣れない島生活も、豊かな自然と温かい人情に支えられ、何とか軌道にのってきました。4年前、不安に押しつぶされそうになりながら採用試験の勉強をしていたころのことは、今でも忘れられません。私の体験記が、今、あのころの私ときっと同じ思いでいるみなさんの力に少しでもなれば幸いです。

## 1 やみくもに勉強しない

採用試験に向けて、どう準備を進めていくか。まずは広く情報を求めることです。試験の詳細な内容や日程、近年の採用状況など、自分なりに整理して常に意識に置いておくことが大切です。こう書くのと当然の話のようですが、私の場合、公立と私立を並行させ、さらに当初は複数の都道府県で受験を目指していたため(これはよほどの体力と意欲がない限り、あまりお勧めしません)、試験内容の把握や日程の調整が非常に大変でした。ただやみくもに勉強するのではなく、どの試験に向けて何をすべきなのかを常に考えながら勉強を進めていた記憶があります。また、勉強のやり方については「広く浅く」が苦手なので、参考書・問題集も量より質。とにかく同じものを何度も何度も繰り返すことで自信をつけていきました。小論文は多少の自信があったので、思いきって勉強の計画から外しました。自分のやり方を早く確立し、落ち着いて勉強できる環境を整えましょう。

## 2 自分だけでがんばらない

偉大な「先輩」である現職の先生方は本当に頼りになります。私は中学時代の恩師と教育実習でお世話になった先生に何かと相談に乗ってもらっていました。自分一人だけでがんばり通すのは難しいということ、また、何かと支えになってくれる人がいるかないかでは大きな違いがあるということ。これは私の実感です。

## 3 最後は度胸

採用試験で最も緊張したのは、口頭試問でした。古文の原文を音読し、そ

の場で現代語訳と作者名・成立年代を答えなければならないのですが、完全に雰囲気のにまれ、「緊張を悟られてはいけない。うまく答えなければ。」と自分で自分に多大なプレッシャーをかけてしまい、頭では違うと分かっている現代語訳をすらすらと答えてしまったのです。パニックになり、作者名・成立年代を問われた時には頭の中が真っ白になっていました。一斉に鉛筆を置き腕を組む試験官の様子から「もう終わった。」と半分諦めかけましたが、次の瞬間、こんなことで終わりにしてなるものかと、急に度胸がすわってきたのです。とにかく熱意を伝えたい一心で、その後は自分のありのままの言葉で思いを語ることができました。そして最後には「先ほどの現代語訳を訂正させてください。」と申し出ることができ、できることは全てやったという思いで退出することができました。あの時、雰囲気のにまれたまま終わっていたら、きっと今の私はありません。最後は度胸です。

## 4 道は必ずひらける

残念ながら採用にならなかった場合、どんな道を選択するかということもよく考えておく必要があります。私自身は、地元の民間企業に採用が内定していました。人事担当の方には、勝手ながら教員を目指していることを早い段階で正直に示してありましたので、内定辞退を申し出た際にもトラブルはなく、逆に激励をいただいたほどでした。とは言え、昨今の経済情勢からしても、やはりこのような企業は少ないと思います。教員を目指す強い信念があるなら、安易な気持ちで民間企業に入社することは避けた方が良いでしょう。とは言え、講師の職に就きながら採用試験を目指すことは難しい、というのが一般的な見方です。講師と言えど、授業・生徒指導・校務分掌・常勤講師であれば部活動と、求められる仕事量は決して少なくありません。精神的にも体力的にもタフでなけ

れば、試験勉強との両立は難しいかもしれません。ただ、覚えておいてほしいのは、それでも講師から採用される人が毎年必ずいるということです。私の前任校では2名の講師の先生が夢を叶えて正採用となりました。どの道を選ぶかは自分自身とよく相談して決めてください。

## 5 最後に……

採用試験が年々厳しさを増す中で、採用されたら一安心……という感覚はもってほしくないと思います。採用は長い長い教員生活のスタートラインでしかありません。採用の後にも果てしない勉強が続きます。

今まで多くの素晴らしい先生方に出会ってきましたが、心の底から尊敬し、また憧れる先生方に共通しているものは、教員としての誇りや自信だけでなく、枯れることのない探求心、そして満足することのない向上心です。教科にも生徒指導にも、この技術を身につけたら終わり、というゴールはありません。常に謙虚な気持ちで「生徒と共に学ぶ」姿勢を失ったら、教員としての資格も失うと思います。それだけの覚悟と前向きさをもって採用試験に臨んでください。

皆さんの未来に幸あれ！！



体育祭にて (いずれも中央が村山先生)



# 教員採用試験体験記

鹿児島県私立鹿児島実業高等学校教諭 永野 武治 (平成16年 商学部商業学科卒業)

今年(2004年)4月に鹿児島県の鹿児島実業高校に採用になり5ヶ月が経過しました。この5ヶ月間を振り返ると多忙ながらも充実した日々だったと思っています。生徒に教える事の難しさ、初めての考査問題の作成と採点、生徒指導と部活動指導など、教師という職業の難しさを肌身で感じました。しかし、生徒と触れあうことによって得られる楽しさや喜びを生徒からたくさん与えられていることも実感しています。私の採用試験体験と、今の教員生活についてこれから採用試験を受験する方に少しでも役に立つことがあればと思います。体験記を書くことにしました。

まず、私が受験した高校は高校のホームページで採用試験の日程や募集内容を掲載してありました。私は大学3年生の頃から頻りにホームページを見ていろいろな情報を集めていました。採用試験の試験内容は大きく分けて一般教養、教科ごとの専門教養、400字程度の小論文、面接の4つでした。一般教養は問題集をやったり日本経済新聞を読んだりしました。特に新聞にはいろいろな情報がたくさんあり新聞を読むことが大切だなと私は思いました。新聞をあまり

読んでいない人は今からでも読むようにした方が良いと思います。専門教養(商業)は、とにかく何回も繰り返し勉強しました。商業科目は出題範囲が広く勉強も大変だったのですが、こつこつとやりました。4年生の時

は、教育実習、部活動の公式試合、海外遠征などありとても苦労しました。商業科目の試験内容は「簿記」「情報処理」「流通経済」の教科のなかから出題されました。特に情報処理や簿記からの出題が多く、その中でも情報処理だとプログラムやコンピュータの構成、簿記だと仕訳を重点的に勉強するといいいでしょう。小論文は「教師に求められているもの」という題でした。私は文章を書くことが一番の苦手でした。最初は文になっていませんでしたが、書くことによって慣れ、少しずつ文が書けるようになってきました。小論文は書くことに慣れることと、自分以外の人に自分が書いた文を読んでもらうことが重要だと思います。最後に面接ですが、面接は自己アピ



ールをしっかりすることと、小論文で書いた事を簡潔に面接官に伝えられるようになっておく事が大切だと思います。

## <教員生活について>

はじめに書いたように、教員生活は多忙ですが、やりがいがあります。私は今、7時に出勤して職員室の掃除をして、生徒が登校してくるのを待っています。早く出勤すると時間に余裕があるので、教材研究や授業の準備をしています。現在私が担当している教科は、簿記、情報処理、商品と流通、商業技術などです。商業の科目は各種の検定試験があるので生徒全員が検定試験に合格できるように頑張っています。また、清掃時間などは、生徒と一緒に汗を流して頑張っています。今は担任はしていませんが、副担任をしています。自分のクラスの生徒達とは毎日会話をして、生徒達の悩みなども聞いています。

これからは、教員採用試験の受験者数も増えて教員になることは厳しくなってきますが、専修大学の後輩の皆さんは、今を頑張ってお夢を実現してください。私も後輩に負けず立派な教師になれるよう頑張ります。



# 教員採用試験体験記

静岡県私立沼津中央高等学校教諭 駒形 潤治（平成14年 経営学部経営学科卒業）

未来の教員を目指す皆さん、こんにちは。皆さん一人ひとり、それぞれの想いをもって教員という仕事を志し、この資格課程年報を手にとってのことと思います。今日は、そんなすてきな夢をもった皆さんのお役に少しでも立てればと思いキーボードに向かいました。

そうそう、遅くなりましたが簡単に自己紹介をさせていただきますね。私は、平成14年3月に専修大学経営学部を、平成16年3月に同大学大学院経営学研究科を卒業し、今年度より静岡県私立沼津中央高校に専任講師として勤務しています。仕事は大きく分けて4つあります。商業・情報科の担当、2年生の担任、校務分掌として総務課（主にはホームページや校内ニュースの発行、奨学金等々）、男子バスケット部の顧問です。初めての勤務でこれだけの仕事を任されることは、やりがいや責任を感じつつも、毎日が勉強であり、試行錯誤、七転八倒、抱腹絶倒といった状態です。

では、これより、本題の教員採用試験体験記に入らせてもらいたいと思います。とはいえ、各教育委員会の行う教員採用試験への対策は他の先生方からの貴重なお話も多々あると思いますので、私は現勤務校に採用されるまでの経緯を紹介していきたいと思います。

平成15年7月

静岡県教員採用試験受験 一次試験不合格

同年8月

試験不合格の悲嘆にくれながらも、私立高校の採用情報を収集し、活動を始める

同年9月

教育実習時にお世話になった先

生から電話をいただく。

「新しく情報と商業の教員を探しているのだけど、どうかな？」

しばらく考えさせていただくことに。

同年同月

校長先生より電話をいただく。

学校にうかがってお話と校内見学をさせていただく約束をする。

同年10月

実際に高校にうかがい、考えさせていただくことにする。

同年11月

お世話になります、との旨を伝え、採用が決まる。

この年、私は東京都の定時制で非常勤講師をしていたものですから、静岡県の教員採用試験に不合格だったとき、来年も継続してお世話になることも考えていました。ただ、せっかくだいたいお話でもあり、非常勤か、専任かということ経験できることも違うとも思い、自分自身にとって大きなチャンスだと思ったので、お受けすることにしました。

ここまでの流れでは、試験らしき試験というものはまったくありませんでした。強いてあげるのなら、学校訪問時の面接くらいなものでしょうか。と、そんな話で終わってしまうと、皆さんのお役に立てなくなってしまうので、少しは参考になるお話を・・・。

私立学校は公立学校と違って、基本的に転勤等の移動はありません。あるとしたら系列の学校間での移動くらいでしょうか。その良

し悪しというものは人それぞれ意見の分かれるところでもありますし、相性がありますから一概には言えません。ずっとその学校に勤めるという前提になりますので、その学校のことを調べておいて、面接時の質問などに対応できるように準備しておくべきでしょう。その中でも、必ずおさえて欲しいところは、「建学の精神」に関してでしょう。これをベースにして、自分の教育観や熱意を話せるようになっていただきたいと思います。また、転勤が基本的にないという以上、本当に長く共に仕事をしていくことになるわけです。学校側、すでに勤務している先生方に「この人と一緒に仕事をしていきたいな」と思っていただけのような人物であることが大切かと思えます。また、自分の例から挙げれば、何より「人とのつながり（ネットワーク）」が大きな武器になっていたと思います。自分が学生のうちにいろんな人たちと触れ合い、交流を深めていくことによって、どこかにチャンスがでてくるかもしれません。

最後になりますが、皆さんが大切に生徒たちのことを想い、育てていくために、今という時間を大切にし研究と修養に励んでください。私も、これからもそうしていきます。共にがんばりましょう。



2列目左端が駒形先生

# 教育実習を終えて（社会・地理歴史）

実習校：神奈川県立横浜平沼高等学校 文学部人文学科4年 松崎 玲

私は6月14日からの2週間、母校である神奈川県立横浜平沼高校で教育実習をしてきました。まず、実習に行くに当たって一番に考えたことは、2週間という短い時間の中で、自分に何ができるだろうか、ということでした。もちろん、授業はしっかりと組み立てなければいけない、けれど、ただ教科書をなぞるだけなら誰でもできる。更に、教師の役割というもの、勉強を教えるだけではない。日々思っていたことを実行したいと思いつつ、不安もいっぱい抱えつつ。そうして、私の教育実習は始まりました。

私が担当したのは、2年生の世界史で、実習開始の1ヶ月ほど前から指導教諭と打ち合わせをし、実習が始まる前までには教材をすべて作り上げておきました。しかし、実際に始まってから痛感したのですが、思い描いていた通りにことはなかなか進まないということ。自分の力の無さに泣きそうになりました。その時思い出したのが、自分が世界史を好きになったきっかけをくれた先生の一言でした。「歴史は人間の歩んできた、ひとつの大きな物語なんだ。」歴史は暗記科目を思いがちですが、それは違う。そのために、何が必要かを考え、どうしたら、生徒が楽しく学んでいくことができるだろうか。そう思い直し、もう一度授業を作り直しました。

ただ、歴史の重要事項を追うのではなく、語ること。それには、自分がきちんと理解すること。自分が理解した上で、今度は生徒が理解を深められるように、豆知識を盛り込んだりして興味の幅を広げること。更に、視覚聴覚など、感覚で歴史を感じられるような資料を提示すること。これを実行し



教育実習最終日、お別れ会で花束を手にする松崎さん

たことで、私の授業はよい方向に向かったと思います。興味を持った時、授業を楽しく受けている時、明らかに生徒の顔が違うのです。それによって、授業中の生徒とのキャッチボールも生まれてきます。ひとりよがりの授業では何の意味もありません。常に生徒の視点に立って、生徒のことを考えていくことの大切さを感じました。授業の後、生徒が「先生の授業、わかりやすかったし、すごく面白かったよ。興味持ったよ！」と、にこにこしながらその日の授業を振り返ってくれたこと、その嬉しさは言葉にしようありませんでした。

生徒とも、そんなところからコミュニケーションが始まりました。最初は、私も緊張していたし、生徒も緊張していました。そこで、まず最初に名前を覚えることに頑張りました。名前を覚えることで、生徒個人と向き合えると思ったからです。結構大変でしたが、それによって、その子の個性や特徴など、見えてくるものもあり、大切なことだと思いました。また、クラス指

導教諭が（私には、教科指導とクラス指導のお二人の先生がついてくださいました）大変よく面倒を見てくださり、生徒との接し方、橋渡し、足りない部分を補い、色々なことを学ばせてくださいました。

丁度、面談の時期と重なっていたこともあってか、何気ない生徒の悩みや、教育実習生であるから話せる事、生徒からもたくさん話をしてくれました。生徒の日々の一言を、大切にしていあげたいと思う瞬間でした。

最終日、生徒と先生が、お別れ会の時間を作ってくれました。大きな花束や、全員が手紙をくれて、嬉しくて終わり難くて涙が出ました。生徒達、そして、先生達から教えてもらったことはとても大きく、あっという間の2週間でしたが、忘れられない2週間になりました。今度、文化祭があるので、そこでまた生徒に会えることが楽しみです。

これから実習に行くみなさんにとっても、教育実習はかけがえの無い経験になると思います。終わった時、きっと人間として得るものが大きいはずです。頑張ってくださいね。



最後列中央が松崎さん

# 教育実習を終えて（社会）

実習校：東京都足立区立第十三中学校 法学部法律学科4年 小堀 大

「小堀先生!!」何とも言えない響きでした。久しぶりに出身母校「足立区立第十三中学校」に戻ってきた瞬間、自分自身が中学生だった頃を思い出し、とても新鮮な気分になりました。今回は、生徒ではなく『先生』として戻ってみんなに授業を教えるという重大な役目があったため、本当に緊張していたということを思い出します。

ホームルームクラスは、3年1組で、授業を教えるクラスは、3年1組から4組と1年4組併せて5クラス担当させていただくことになりました。教えるにあたって注意した点は、「楽しく且つ分かりやすさをモットーに!!」を目標にして授業展開をしていきました。

実際に授業が始まり、とても苦労した点は、それぞれのクラスによって雰囲気があり、「ノリがよいクラス」「ノリがいまひとつのクラス」があり、クラスによって授業のやり方を変えて行わなければならなかったという点でした。また、1週目の教壇実習では、緊張すぎてチョークは折れるし、言葉は早くなるし、自分で何を言ってるのかも分からなくなるし、いっぱいいいっぱいでした。しかし生徒の顔を見ると「ガンバ!!」って口ずさんでくれる生徒がいたのでそこからは、肩の荷がおりたのを覚えています。授業で生徒が助けてくれるというのはこういうことか、とわかった瞬間でした。そこから



2列目右が小堀さん

はスムーズに進み始め、私自身が楽しくなってきました。しかしそこで「慣れ」がでてきたせいか、2週目は一方的に進めてしまう授業になってしまい、指導教諭から指摘され深く反省させられました。

2週目の後半から3週目は、生徒に考えさせる授業を展開していきました。3年生も1年生も地図や絵画を見せて、その中から考えさせる授業も展開していきました。そうすると、こちらも授業を展開する際には、あらかじめ「予想される答え」というのをある程度想定しますが、中学生の発想はおもいがけない答えが出てきて、その生徒のおかげで授業が盛り上がり、感心させられたりもしました。実はそれが研究授業の最中でもあったのです。生徒たちに感謝です。

3年生・1年生も授業を行う際には、様々な工夫や生徒の発問の答えを利用することによって授業中の反応もかなり変化します。また授業展開の仕方は、私自身にしかできない行い方にも気がつき、それを最大限に活かすようにも努力しました。私の場合は、「誰にも負けない笑顔で元気に行う事」でした。

授業以外では、運動会もあったので生徒たちと一所懸命に汗を流しました。練習姿を見て「頑張っているな」と感じたのが大ムカデ競争で、ホームルームクラスの3年1組の生徒から「うまくできないよ」と相談をもちかけられました。高校



実習校の生徒たちと給食を共にする小堀さん

生の頃に、私自身に経験があったため指示を出しました。とにかく「大きな声をだして、クラスで1つになる」ということを教え、私も放課後生徒と一緒に練習に参加したりもしました。私自身が夢中になり一緒に熱くなりました。

何はともあれ教育実習最後の日、生徒たちは中間テスト真っ最中にもかかわらず、寄せ書きと花束を贈られて、胸が熱くなりました。目に涙が浮かびましたが、生徒たちと「笑顔」で別れる約束だったのでこらえました。この気持ちは言葉では表現できません。本当に3週間「生徒」達から多くのことを学んだ教育実習でした。指導教諭と生徒達には「感謝」の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、これから教育実習に行く方へのアドバイスは、自分自身にしかできないやり方が誰にでもあるはずで、無理をせず、自分らしく授業はやっていきましょう。生徒は自然と実習生に協力してくれます。私は何回も生徒たちに救われました。同じ目線でたってみたり、時には、先生として行ってみたり、色々挑戦してみてください。また教職の免許をとろうと考えていた最初の気持ちを忘れないで、その時に考えていたことを実行してみてください。GOOD LUCK!!

# 教育実習を終えて（国語）

実習校：静岡県静岡市立高等学校 文学部日本語日本文学科4年 成瀬 麻紀

2週間という期間はとても短いものだったけれど、本当に充実した、中身の濃い毎日でした。終わってみてまず一番に思い出すことは、生徒達の元気な笑顔や、まっすくな瞳です。

「教わる」立場で3年間通った母校に、今度は「教える」という立場で登校しました。

一日目、初めての生徒との接触の場面で教壇に立つと、足は震え、緊張で頭の中は真っ白になり、声も小さくなってしまったことを今でもはっきりと覚えています。

私は1年2組、1年5組、1年6組の3クラスの授業を担当してもらい、クラスは1年2組のみの担当でした。扱った教材は『羅生門』という小説で、3クラス合計20時間もの授業をこなしました。一度も授業を経験したことのない私にとって、60分×20時間という授業数はとてつもないプレッシャーでした。それを少しでも回避する為に、私はひたすら教材研究を行いました。しかし、実際教壇に立って教えるのと、指導計画とは全然違うものでした。教える内容に沿って、こちらから生徒に発問するのに対し、生徒からは予想もしない答えが返ってきたり、何の反応もなかったりするので。それらに対し、教師は意欲を失わせてしまうような言い方は決してせずに、生徒の返答に対し、柔軟に受けとめ適切な、筋道立った言葉や答えを伝えなくてはいけないと感じました。また、反応のないクラスには、もっとも分かりやすい発問にその場で変えたり、答えを導きだすプロセスを教える必要があります。そのためにも教材研究はやってやりすぎると

いうことはなく、それと同時に常

に生徒の目線で考えることがとても大切だと思いました。

また、実習を通じて一番感じたことは、生徒との普段のコミュニケーションがそのまま授業にも表れてくることです。私の場合、クラスを担当させてもらった1年2組は、他の2クラスに比べ圧倒的に授業に対する意欲が強く、拳手をしてくれる生徒数もだんとうに多くなりました。おかげで私自身も楽しい授業を展開することができ、自分にとって自信に繋がりました。



中央が成瀬さん

した。やはり学校というのは人と人との繋がりであり、授業も同じなのです。一方的に教師側が教える授業ではなく、生徒とのキャッチボールを大切にすることが生徒との信頼関係を築くのだと思います。実習をする前はこれらの事は全く考えることができませんでした。

生徒との交流は、朝から帰りの



花束を手にする成瀬さん

HR、授業前の御用聞き、また文化祭の準備、部活動など、授業外で生徒と話す機会を積極的に活用しました。時間を重ねるごとに距離が縮まっていくことを肌で感じる事ができました。

私は今回の実習で、本当の先生ではなく、実習生という立場で生徒と触れあいました。そのためか、生徒はとても積極的に話かけてきてくれたり、近づいてきてくれたりしたように思います。それが自分の授業への自信や、パワーになりました。このことを忘れることなく、いつか本当の教師になれた時もいつも生徒と近い距離で、生徒の気持ちがわかる教師でありたいと強く思います。

2週間というとても短い期間に私は多くのことを学び、成長し、かげがえのないものを得ることができました。大変お世話になった

指導教諭の先生、生徒のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。

これから実習に行くみなさん、「楽しむ」ことをいつも忘れないで下さい。こちらが一生懸命にやり、その熱意が生徒に伝われば必ず生徒も応えてくれます。懸命に楽しくやるのが成功へのプロセスだと思います。元気にがんばってきて下さい。

# 教育実習を終えて（英語）

実習校：埼玉県新座市立新座中学校 文学部英語英米文学科4年 横瀬 喬哉

私は6月の初めから7月の初めにかけての約1ヶ月間、埼玉県新座市にある市立新座中学校で実習をさせていただきました。実習前に多くの人から「1ヶ月も実習ですか？長いですね。」と言われましたが、私自身はむしろ1ヶ月も実習が出来ることがとても嬉しかったです。というのも、大学の教職の授業でも模擬授業をやっていましたが、やはり実際の中学生を相手にしてみなければ、どのような授業方法が良くてどのような反応が返ってくるのかわからないと考えていたからです。

＜子どもたちに対して正直に、真正面からぶつかっていく事の大切さ＞

私は学級担任として1年4組を担当させていただきました。実習初日、クラスに行く前もあまり緊張することはありませんでしたが、唯一、自分の声が他の人に比べて高いということもあって、これを生徒が難く受け入れてくれるかどうかだけが不安でした。とにかく、子どもたちと真正面から向き合って素直に接していこうと思い、自己紹介の時にも自ら話題に出しました。すると、生徒の方が興味を持ったのか、色々話しかけてきてくれました。さらにクラスでいじめの話が話題になったときも、自分のいじめについての体験談を話し、それをきっかけに話しかけてくれる生徒もたくさんいました。とにかく生徒に対して正直に、まっすぐ向かっていくこと、そして給食や掃除の際にも積極的に話題に参加



していき、こちらから話しづらいのであれば、生徒の話に自分から乗っかってみる事が大切であると思いました。

＜教科指導を通して＞

教科指導では、T.Tの難しさと授業における時間配分の難しさを痛切に感じました。

私は1年生を中心として、2年生のT.T、3年生の選択でのT.T、そして特殊学級で授業を持たせていただきました。ただし、学校の都合で同じ学年に2人英語の実習生がいた関係で、ほとんどの授業をT.Tで行い、導入など部分部分に分けて教えるという形をとっていました。さらに1年生では、英語を習い始めた生徒たちのリズムを崩さないためにも、授業の大まかな流れは担当の先生のやり方に合わせてほしいと指示され、ある程度事前に教材研究をし、授業の流れを考えていた私としてはやや戸惑いがありました。とりあえず気持ちを切り替えて、まずは担当の先生を中心にして授業見学を何回も行い、授業の研究をしました。担当の先生の授業はテンポが良く、生徒を飽きさせない授業で、見学をしながら自分にも同じような授業が出来るか不安になりました。そして、教壇実習に向けての計画をもう一人の先生と一緒に立て始めました。授業に対する考え方がすべて一致することが無いのは当たり前前で、放課後や空き時間含め何時間も議論を重ね、

土曜日にも学外で会い、半日話し合うこともありました。計画を立てた後も、放課後などに誰もいない教室で何度もリハーサルを行い、ストップウォッチで実際に時間を計ってみたりもしました。そしてのぞんだ研究授業は、完璧ではなかった



実習生の仲間たちと一緒に（中央が横瀬さん）

ものの予定していた内容を終えることが出来、生徒も楽しそうに授業を受けてくれました。限られた時間の中で中身の濃い授業を行うこと、そして相手と協調しながらも自分の役割をしっかりと意識して授業を進めることの難しさがよくわかりました。

また、ノート点検や小テストの添削なども行い、自宅に持ち帰ってつけることもありました。ノート点検の際は出来ていないところにコメントをつけたり、良いところを評価してあげたりと地道な作業が続きましたが、「どんな小さな事でも、きちんとやっているという事を生徒に示すことで、子どもたちをひきつけることも大事ですよ」という担当の先生の言葉を聞いて、小さな事でも、子どもたちの為にやっているという姿勢を見せることの大切さを学びました。

＜終わりに＞

今回の教育実習で、10年以上も考えてきた教師への夢がますます強くなったと思います。実習最後の日、担任したクラスの子どもたち一人ひとりから手紙をもらい、その中で多くの生徒が、「先生なら絶対本当の先生になれるよ」、「来年また新座中学校に教えに来てね」と書いてくれました。実習中は辛い事、大変な事がたくさんあるかもしれませんが、けれども、その分だけ良い思い出がたくさん出来ると思います。子どもたち、そして実習に真正面からぶつかってほしいと思います。

# 教育実習を終えて（商業・情報）

実習校：神奈川県立港北高等学校 経営学部経営学科4年 高橋 正憲

2週間という短い期間でしたが、教育実習で学んだことは大変多くありました。教育実習での2週間は、想像以上に充実した2週間でした。授業の進め方だけでなく、生徒との接し方など普通の生活に関わることまであらゆることが貴重な経験でした。

教育実習が始まる前は、実習高校が母校ではないことから、不安に思っていました。しかし、昨年度実習に行かれた先輩のお話を伺うなどして、ある程度の学校の雰囲気をつかむことができ幾らか不安が薄れました。

授業は、やはり自分が受講したことのない教科である「情報」ということもあり、授業展開に苦労しました。実習中は、授業展開を考えるのと授業の資料を作成するのに多くの時間を費やしました。その結果、授業展開は工夫できたと思います。

情報の授業は、一般的にパソコンの使い方を教えるものであると捉えがちです。実際に、実習に行った高校も、4月からWordの使い方を中心に教えていました。したがって、生徒の情報に対するイメ

ージも「パソコン操作」だけに等しかったように思えます。しかし、教科「情報」の目的は、パソコンの使い方を教えることではなく、それよりも、実践活用能力を育ませることが目的です。私が担当した範囲は、「インターネットについて」であったため、最終学習目的を、「ネットワーク活用の心構えを身に付けること」と設定しました。そして、インターネットの使い方だけを教えるということを受け、インターネットを使った場合に生じる問題点などを教えました。

このように、授業中に生徒がパソコンを操作する時間を極力減らすことにしました。また、内容は、できる限り最新の情報を扱い、生徒の興味をひく話題や記事を扱いました。内容の難しい著作権については、クイズ形式で生徒に答えてもらうなどし、授業中にも生徒との距離を縮めるようにしました。

授業内容で最も工夫した点は、最終授業のディスカッションでした。このときは、普段はコンピュータ室で授業を行っているところを、今回だけグループディスカッションをしやすい教室で授業を行

いました。教室で情報の授業を行うということ自体、生徒には不思議な感じだったようでした。ディスカッションの事例は、生徒の身近な題材にすることを心がけました。ディスカッションを行う前には、「意見が出るだろうか」、「生徒が積極的に参加してくれるだろうか」と担当の先生と不安に思っていました。結果として、生徒から多くの意見が出され、それをまとめるのに苦労するほどでした。

この実習で、実習校の先生方から大変お世話になり、多くのご指導をしていただきました。担当の先生からの指導では、最初は授業展開や方法について細かく指摘されずに、自分で考えさせてもらいました。自分で考えた授業展開、資料で実際に授業を行った後でアドバイスを頂き、今後の授業で改善していくという形でした。自分で考える時間を与えてくださったことが、より真剣に授業に対して、生徒に対して考えることに繋がったと思います。

教育実習終了後に強く感じたことは、もっと実習をしていたかったということでした。最初は、実習校が母校ではなかったことが不安でしたが、今では母校ではない高校で実習できたことが自分を成長させるという点で大きなプラスになったと思っています。2週間の実習生活で学んだこと、感じたこと、考えたことをこれからの生活に役立て、自分を成長させたいと思います。

教育実習は、自分を成長させることのできる機会です。実習期間は、今後の大切な財産となります。不安に思うことが大きいと思いますが、それでも自分から積極的に教育実習に臨んで、自分を成長させてください。



# 教育実習を終えて（情報）

実習校：山梨県立甲府城西高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 板倉 幸平

教育実習は基本的には母校で行うものです。しかし情報という新しい教科を初年度から取り入れている高校は少なく、私の母校も例外ではありませんでした。そのため、実習は母校ではない高校で行わなければならない、楽しみより先に不安が先に立ってしまいました。しかし初日から私の不安は完全に消失。生徒の方から積極的に話しかけてもらえ、私の事を受け入れてもらったという安心感から実習に対しての「やりがい」を得ることができました。

とは言っても2週間という短い時間では、情報の授業での授業補助やホームルーム活動、授業が入っていない時間帯は授業見学、他の実習生との討論会、学校行事等をこなしているうちにあっという間に過ぎてしまいました。また、実習生にとって最も難題となるであろう研究授業が、私の予想していたものとは異なっていたことも時間の経過が早く感じた理由の1つではないかと思っています。本来ならば担当教諭の授業で行うはずの研究授業を、いつ、どの先

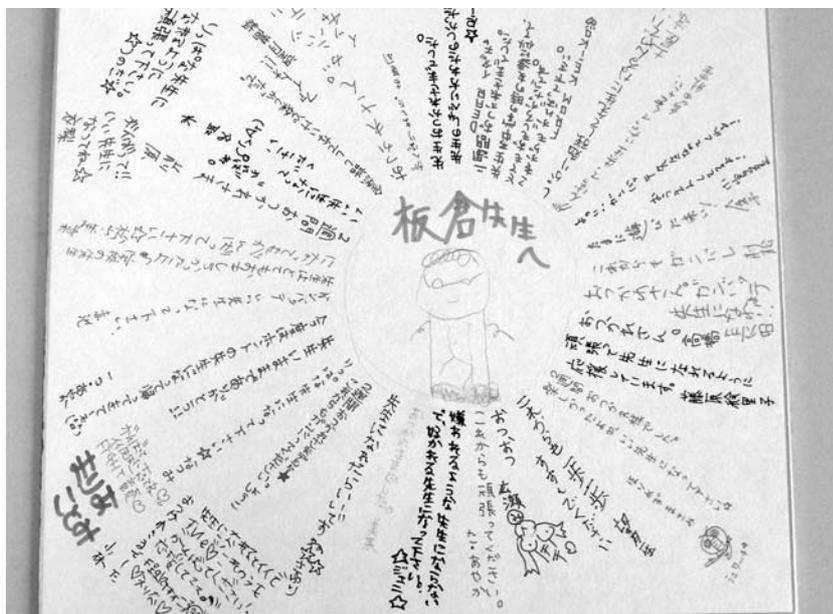
生の授業で、座学が実習か、どこをやるかを自分で決めても良い、という完全に私の自由意志で決定することができたのです。しかし、それは範囲を指定されるよりはるかに難しいことです。どこをやっても良いと言われたが、やはり進行状況に合わせた範囲を行うべきであり、授業を行う時間までにどの辺りまで進んでいるかを考える必要があります。また、先生が自由に選べるので、お世話になる先生に研究授業をやりたいという旨を早くに伝える必要もあり、早くから準備に着手する事が求められます。しかし逆に、研究授業をやった時間帯を受け持っている先生と、私の指導教諭という2人の先生に指導案や授業で使用する教材のチェックをしてもらうことも可能となり、結果的により良いものを作成することができたと考えられます。

前日までの準備段階で、授業の「ヤマ」をどこに持っていくか、時間配分はどうするか、資料はどのようなものを使用するかを考え、実際50分通して喋ってみて授業の

流れを確立させていく事を繰り返して練習しました。勿論「自分の考えたように授業が進む」などという事はあるはずもなく、無駄な努力だと考えるかもしれません。ですが、生徒からの質問に的確に答えられるようにしておく、時間の関係で省く、又は補足する個所を決めておく等で、少しでも時間内で自分の考えた授業展開ができる様にしておくことは重要です。これらの作業は大学での講義の中で何度か行ったものであり、そのときの経験が多分に生かされています。

実際の教壇実習は、多くの生徒が見ているというプレッシャーがあり緊張すると思われれます。しかし最初の一言を発してしまえば、後は勢いも手伝ってそれほど緊張することはありません。それよりも恐ろしいのは生徒に「飽きられる」ことです。指名する、生徒に作業させる個所を設ける、実物を見せ、実例を挙げる等、生徒が興味を持てる話題をふる、行動させる、などをして「飽き」を与えない工夫が求められます。

情報は始まってまだ間もない教科であり、授業に対してのイメージもあやふやだと思います。しかし「従来のやり方」というものが存在しないからこそ、自分オリジナルの授業を行い易いという利点も兼ね備えている、ということをお忘れなく。そして何より教育実習を楽しんでください。こんな乱文を最後まで読んで下さった皆さんの教育実習が、充実した素晴らしいものになりますように…



実習校の生徒たちから贈られた色紙

# 介護等の体験を終えて

法学部法律学科4年 松本 慶子

「おはようございます」という生徒さんの元気な挨拶から、私の葛飾養護学校での一日目の体験は始まりました。前日から、生徒さんたちとうまくかわっていただけるか、ちゃんとコミュニケーションがとれるだろうかと不安な気持ちでいっぱいでしたが、生徒さんの元気な声がそんな気持ちを吹き飛ばしてくれました。

学校の概要や生徒さんの実態等の説明を受けた後、実際に音楽や体育、作業学習の和紙作りに参加させていただきました。「おはよう」と言葉を交わせたことで、体験に対する不安な気持ちは取れたものの、授業にどのようにかかわっていったらよいのかわからず、緊張しながら音楽室の入り口に立っていました。すると、生徒さんから「こっちに来て」と先生を中心とした輪の中に入れてくれたのです。輪の中に入り一緒にラップを吹いたり雅楽を鑑賞し感想をいいあったりと、生徒さんも私もこの時間を全力で臨みました。

何事にも積極的に取り組んでいこうと心がけていたつもりでしたが、実際に現場に行ってみると何をどうしたらよいのかまったくわからない状態で、戸惑うばかりでした。そんな私を心機一転させ、積極的に動くことができるようにさせてくれたのは、生徒さんたちのどんなことにも真剣に取り組む姿勢とその生徒さんたちを温かい目で見守っている先生たちの姿でした。

障害があることを思わせないくらい、明るく元気な生徒さんたちとの短いふれあいの時間を大切に、体験の意味を考えながら一人ひとりの生徒さんを少しでも理解できるよう、先生方の指導のもと二日間の体験を充実させることができ

ました。

この体験を通し、先生と生徒さんの信頼関係の深さを肌で感じました。生徒さんは、自分を理解しようと正面から向き合ってくれる先生方を心から慕い、そんな生徒さんの思いに応えようと、一生懸命一人ひとりの生徒さんを大切にしている先生方の篤い思いが、この信頼関係を作っているのだと学びました。

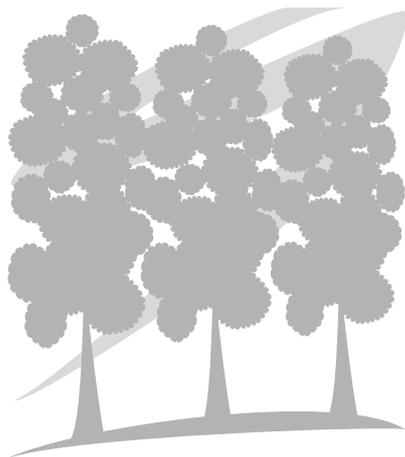
もう一つの体験先の授産施設綾瀬ひまわり園では、企業からの受注作業や自主生産作業、園内の工房で焼いたパンの移動販売、近くの公園清掃などを中心に参加させていただきました。

二日間の養護学校での体験の反省を生かし、体験初日から今度は私のほうから元気な挨拶を心がけ、利用者さんとの距離を近づけていけるよう積極的に話しかけていきました。初めは緊張しながら話をしていましたが、徐々に利用者さんからもどんどん話しかけてくれるようになり、二日目からは元氣よく皆さんと身体を動かしたり、昼食時は利用者さんが工房で作られたパンと一緒に味わわせていただいたりと、作業時間以外の休み時間等も、利用者さんとの共有する時間を増やしていくことができました。

何事にも積極的に取り組んでいくという目標は達成できましたが、反省会の中で職員の言われた「やってあげることは簡単」、という言葉に私ははっとしました。私は介護という言葉で、私たちが何でも身の回りのお世話をしてあげるものだと思い込んでいたためです。職員の方々の姿勢は、手取り足取り作業を手伝うのではなく、利用者の方がいかに自ら作業に取り組んでいけるか、じっと見守りながら、何事もやりやすいようにルールを引いてあげるというものでした。

七日間という短い体験期間の中で不安や戸惑いはありましたが、体験を通して人と出会うことの喜び、真剣に取り組む姿勢は必ず相手に伝わるものであることなど、学ぶことは数多くありました。

これから介護等体験をされる方は、教師になる、ならないにかかわらず、社会の一員として得るものは大きいと思いますので、貴重な体験を充実したものにできるよう目標を持ってがんばってください。



# 司書・司書教諭課程



# 「情報サービス概説」～双方向性のある講義実現の試み～

文学部 兼任講師 中島 玲子

## 1. はじめに

「情報サービス概説」は後期「レファレンスサービス演習」の前提科目であり、「情報検索演習」とも密接に関連している。この講義では、コンピュータやインターネットの普及と活用を十分視野に入れながら、一般におこなわれている様々な情報サービスの種類と機能をはじめ、情報社会における図書館の情報サービスの機能と意義、情報探索プロセス、情報ニーズの理解、レファレンスプロセス、情報源と利用教育などについて幅広く取り上げた。

## 2. 講義の進め方

図書館の情報サービスは多岐にわたっているが、そもそもの確かな情報サービスを提供するには、まずサービス対象となる利用者の考え方や気持ち、視点を理解することが大切である。しかし司書資格課程の履修者とはいえ、図書館は本を借りたり自習したりするところというイメージの受講生が多いのも事実である。講義には、新聞記事やインターネット上の情報源、情報探索実習、ビデオ視聴、グループディスカッションなどを取り入れ、図書館の情報サービスを体験として多面的にとらえる工夫を試みた。本稿ではそのうちいくつかを紹介する。

### 2.1 講義資料

最新の情報を組み込むために、各回に要点をまとめたレジュメを配布した。講義の進行予定を箇条書きにし、紹介したい参考図書の書誌事項や参考サイトのURLのほか、専門用語の説明、課題の要件などを記載した。状況に応じてインターネットからダウンロードした資料や文献コピーなどの配布資

料を加えた。

### 2.2 ビデオ教材の利用

図書館勤務が未経験であるのは当然としても、図書館の利用経験が浅い受講生も多い。このため、図書館員および図書館の各種サービスについて自らのイメージを膨らませる一助としてビデオ教材を活用した。受講生には講義期間を通じて常に複数の視点を持ち続けることを要求していたが、ビデオにおいても例外ではなく、開始前に視聴のポイントを説明し、時に利用者の視点から時に図書館の立場を考えながら視聴することを求めた。

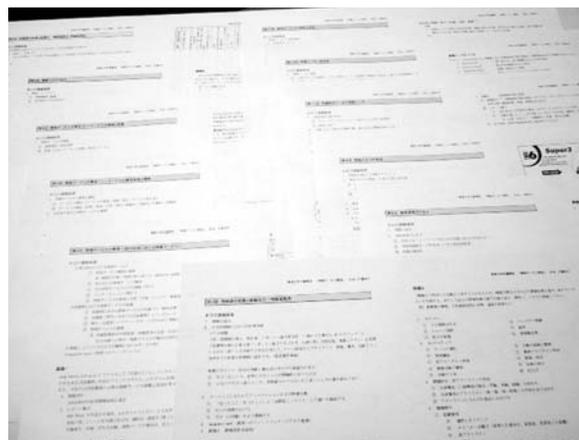
具体的には公共図書館のさまざまな取り組みを紹介したTV番組の録画ビデオの他、大学図書館における利用教育例として『新・図書館の達人シリーズ』（紀伊国屋書店）を視聴した。同ビデオは、本来一般的な大学生向けに作製され、主人公の大学生達が図書館員の指導を受けながら、基本的な情報探索術やレポート作成法などを学んでいくドラマ仕立てのシリーズである。今回は情報サービスの観点から、登場する図書館員の姿や利用者とのやりとりなどを観察し、受講生自身に置き換えて図書館員のあり方を考えるように求めた。

### 2.3 情報探索実習

前期中盤から1ヶ月半ほどかけて、各自未知の問題解決に取り組みレポートとしてまとめるという情報探索行動に取り組んだ。利用者の情報ニーズの把握の重要性を理解するとともに、利用者の立場になって情報サービスのあり方について考えるためである。この体験を通して、学生・社会生活において必要な情報活用能力を身につけるという一石二鳥の狙いもあった。

各受講生は自身の専攻とは関係なく、時事問題を中心とした6つのトピックの中から任意に1つを選び、その中で自由に主題を設定する。続いて文献探索からレポート作成まで、ビデオで学んだとおり順を追って情報探索行動を行い、最後はグループ内で発表する。平行して自分自身の情報探索行動を観察し、その時々のお考えや心境などをノートに記録していく。レポート作成後、受講生自身による評価を行う。トピック選定にあたっては、なじみのあるトピックを選んだ受講生がいた一方、せっかくの機会だからと、普段まったく縁のない未知のトピックを選んだ受講生もいた。

今回の課題ではマニュアル通りステップごとに進めていったが、じっさいの情報探索行動はマニュアルや計画どおりに進むものではない。知識を自分のものとしていく途中では、迷いや行き詰まりを生じたり焦りを感じたりするのが常である。利用者としてのこうした状況の体験は、図書館員の立場となったときに利用者の理解につながり、情報サービスについて、



講義資料

いつどのようにどういう形で利用者を援助すべきかを主体的に考えるヒントとなる。

## 2.4 グループディスカッション

よりよい結果を生み出すには人的つながりも重要である。せっかく司書資格課程の受講仲間として同じ空間と時間を共有しているので、これを機に積極的に情報交換してほしいと、グループディスカッションを2回設けた。

1回目は情報探索実習の第1ステップである主題の設定と事前文献調査の終了時点である。同じトピック同士グループになって課題に関する悩みや壁を共有し、情報源を教えあう等の情報交換を行った。短時間だったが、他の受講生と言葉を交わすのは刺激的で有益だったようだ。

2回目は情報探索行動の成果物であるレポートの提出日におこなった。別のトピックの2~3人でグループになり自分のレポートの内容を簡潔に説明し、講義中に指示したチェックポイントを参考にしながら、お互いレポートを見せあい情報探索行動の評価を行った。成果物を見せあうのは抵抗があるかとも思ったが、各グループ活発に議論が行われ、「他人のレポートを見るのはあまりない経験なので非常に勉強になった」「もっとディスカッションの時間が欲しかった」という意見が多かった。中には「レポート作成中から見たかった」という声もあった。受講生諸君は、教員から機会を与えられるのを待つだけでなく、これからも自発的に声を掛け合って、課外時間などを利用して情報交換してほしい。

## 2.5 ミニッツカード (minutes card)

講義科目ではとかく教員対多数

の一方通行になりがちであるため、出席カード等を利用して、毎回の講義終了時に「ミニッツカード (minutes card)」と称して感想を書いてもらった。その回の講義に関して、「よかったこと (理解できたこと) ・ わかったこと (理解できなかったこと) ・ 世間話」を記入してもらう。

近年の学生は授業中の質問や発言が苦手だといわれるが、個別に記入するとなるとためらいが減少するようで、ほぼ全員がびっしりと書き込んでくれる。終了後に一枚ずつ目を通して一喜一憂するのだが、『よかったこと』に注目するとその回のメインがきちんと伝わっているかがわかる。また受講生の感度がよく、きらりと光る意見や鋭い質問が書かれていてハッとすることも多い。『わかったこと』には、初回から「板書がわかりにくく、ノートにとりにくい」という指摘が複数あり、改善につとめた。また、「理解しにくい」と指摘された項目については、次回以降改めて補足説明を行った。その他目についた意見や質問へのコメントを心がけた。『世間話』は一見授業とは関係ないが、この講義以外の様子や体調などを知り、進行を調整する手がかりにもなる。この

ようにミニッツカードの導入は講義環境の改善にも有用で、双方向性のある講義実現の一助になった。しかしこちらが反応するのは常に一週間後となるため、同様の意見や質問が何枚も続くと、その場で発言してくれればと残念に思うことも多かった。是非、遠慮なく授業中に発言してもらいたい。

## 3. おわりに

今年度の講義では、演習的要素を持たせ情報サービスの可能性について多岐にわたって考えてもらえるよう工夫したつもりである。このため半期科目としては扱う内容が多く、また1ヶ月以上におよぶレポート作成等、受講生諸君に負担が大きかった面は否めない。その甲斐あってか「情報探索が楽しくなった」「図書館には人材が大切なのがよくわかった」等の意見も多かった。図書館を取り巻く情報環境は日々変わっている。この講義で培った情報スキルを十分に活用して常に情報収集と自己啓発を怠らず、利用者のニーズを理解して行動しつづける司書をめざしてほしい。



ミニッツカード

# 卒業生から

専修大学図書館神田分館勤務 玉本 ゆき子 (平成12年 文学部人文学科卒業)

幼いころから本が大好きだった私にとって、本の宝庫である“図書館”という場所はとても魅力的な空間です。そしてまた、そこで働く“司書”という職業を知り、いつしか自分も図書館で働きたいと思うようになりました。その後、司書課程を履修し、大学卒業後、中学校での学校図書館員(非常勤学校司書)を経て、現在は専修大学神田校舎の図書館で委託スタッフとして働いています。

現在の担当はカウンター業務です。カウンター業務といっても、もちろんただカウンターに座っていて利用者を待ち、貸出や返却の対応をするだけではありません。まずは朝の開館準備。前日からの引継ぎ事項を確認し、その後、点検のため館内をひとめぐり。それと同時に朝刊を並べ、端末を立ち上げ、返却ポストに返された本を回収します。開館後は利用者との対応を軸に、返却資料を所定の書棚へ戻す配架や書棚の乱れをチェックする配架点検、予約の受付、図書館利用カードの発行、延滞者に対する連絡、各種データベースの提供などさまざまな日常業務を他のスタッフと分担しながら行います。

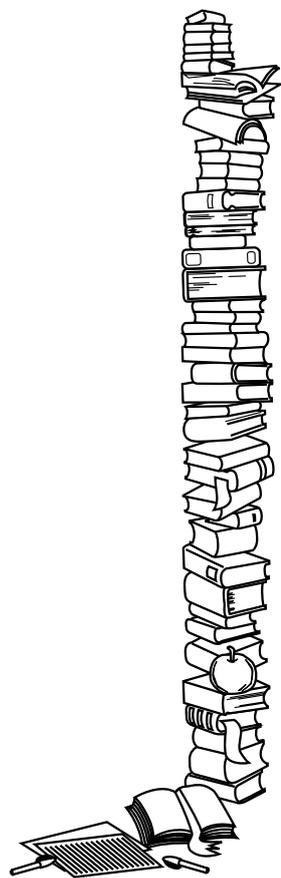
また、日常業務とともにレファレンスにも対応します。大学図書館の役割といえば、大学の構成員である学生や大学院生、教職員の方々の学習および調査・研究をサポートすることです。よって利用者からの質問に答えるレファレンスサービスというのも忘れてはならない重要な業務です。ただし、一口にレファレンスサービスといっても例えば、資料の探し方や所在、OPACの使い方など図書館の利用方法についての説明から、オンライン・CD-ROM・DV

Dデータベースの利用方法の説明などその内容は実にさまざまです。また、利用者の求めている資料が専修大学内の図書館で見つからない場合には、他大学や他機関の所蔵を調べて紹介状を発行したり、ILL(Inter-library Loan:電子メールの機能を利用して他大学や他機関に文献複写物や資料取り寄せの依頼をし利用者に提供するサービス)なども行います。

このようなレファレンスサービスにおいては、利用者の求める情報をいかに素早く、的確に提供できるかということがとても重要です。しかし、近年の急速なIT化やメディアの多様化により私たちを取り巻く情報は膨大なものとなっており、その中から必要な情報

を選び出すことはたやすくありません。ですから司書は従来の印刷された紙の参考図書に対する知識だけではなく、インターネットも含めた電子情報源を使いこなす技術や利用者の要望を正確に捉えるコミュニケーション能力も備えている必要があります。

最後に、私が“司書”という職業を選んでよかったと思うのは、例えば利用者が探していた本を見つけて提供したときなどに「ありがとう」と言ってもらえる瞬間です。少しでも人の役に立てたということがとても大きな喜びとなります。今後もその喜びを力に、よりよい図書館を目指していきたいと思っています。これから司書を目指すみなさんもぜひがんばってくださいね。



# 図書館実習を終えて

実習館：栃木県高根沢町図書館 法学部法律学科4年 小池 禎子

高根沢町には、私が実習でお世話になった中央館を除き、分館が二つあります。全国にまだ図書館がない町村がある中で、一つの町に三館もあるというのは、大変珍しく、そして恵まれていることだと思います。

そのような町で行った実習は、大変でしたが、とても実りのあるものでした。

ほとんどの人は、司書（図書館員）というカウンター椅子に座って仕事をしているイメージを抱くかもしれませんが、それは、司書の仕事のほんの一部にすぎません。図書館の中では、常に動き回っています。返却された資料を配架する作業は、利用者が多ければ多いほど回転が速いですが、体力的にとっても大変です。老若男女、様々な人が図書館を利用するので、貸し出される資料も様々というわけです。そうすると、配架ごとに図書館の中を一回りすることになります。中には、利用者自身に借りた本を戻させる図書館もあるそうです。それを聞いたときには大変驚きましたが、この配架作業は、どんな資料がどこに配架されているのかを自然と身に付けるのにとっても重要な作業だと思います。こ

れは、利用者自身に本を戻させては身に付かないことであるし、迅速なサービス提供にもつながることだと思います。

図書館員は、機械的に貸出処理や返却処理を行えばいいというものではなく、利用者に「こんにちは」「ありがとうございました」と声をかけることの大切さも学びました。利用者との触れ合いを大切にすることで、利用しやすい環境を築くことができます。実際に、私は実習生という立場ではありましたが、よく利用者から声をかけられました。しかし、利用者と接する作業はとても緊張しました。カウンターでの作業はもちろんのこと、利用者から質問されたときも、その対応の仕方の難しさを実感しました。

12日間の実習では、雑誌・CD・ビデオの装備・データ入力、ソート、カウンター業務、配架、物流、選書、予約処理、相互貸借、移動図書館、資料の修理、ブック



高根沢町図書館

スタート（見学）、新書の検品などをやらせて頂きました。その中で一番感動したのは、選書から発注、検品、配架と、資料が利用者の手に渡るまでの一連の作業を経験させていただいたことです。選書は、その図書館の質があらわれる大事な作業の一つであるのに、実習生である私の意見も採り入れていただきました。資料は限られた費用の中から購入するわけですから、利用者の立場になって選ぶよう努めました。選書された本を発注するとき、その中に自分が選んだ本が数冊ほど入っていたので、とても嬉しく思いました。選書して発注した本を検品して配架するときには、たくさんの利用があることを願いながら行いました。

図書館業務に長くたくさん携われれば携わるほど、利用者の様々な要求に応えられるようなサービスが提供でき、大変だけれど図書館で働くことの楽しさが実感できるのだと思いました。

今回の実習で、私は様々な図書館業務を経験させて頂きました。本当に貴重な体験ができました。これも、ひとえに親切にご指導下さった職員の方々、そして利用者のおかげです。



# 図書館実習を終えて

実習館：東京都府中市立中央図書館 商学部商業学科4年 市村 菜穂子

私は、8月17日から30日までの12日間、府中市立中央図書館で実習を行いました。府中市の図書館は、地区館を含めて全部で13館あり、一番大きい図書館が中央図書館になります。1階が一般図書・雑誌、2階が児童室と事務室、3階が視聴覚資料・参考図書という造りになっています。日頃から利用している図書館だったので、実習に行くことを楽しみにしていました。

実習では、実際に貸出・返却作業を中心としたカウンター業務、書架整理、お話会、図書や雑誌の装備・受入作業などをした他に、図書館概要をはじめ児童・生涯者サービス、図書選定、リクエスト、レファレンス、郷土資料、管理業務などについて、担当職員の方が日常業務の合間を縫って話をして下さいました。図書選定会議の見学や地区館での実習もあり、図書館業務について可能な限り実習させて頂けたのだと思います。

図書館の仕事というと、楽な仕事とか単純で簡単な仕事というイメージを浮かべる人が多いのかもしれませんが、実際は細かい作業も多く忙しいです。図書館がどのように運営されているのかということは、利用しているだけではわからないのだと思いました。

カウンター業務は入る度に緊張していました。カウンターにいる時は、貸出・返却作業の他にリクエストや延長の手続きをしたり、書庫にある本を取りに行ったりしました。書架整理では書架の間をぐるぐるまわることで、だんだんと書架の配置を覚えていくことができました。書架整理は、蔵書構成を把握するためにも重要な作業だと感じました。また、利用者の方々から色々な質問を受けました。

貸出に関する質問、図書館の設備や書架の配置に関する質問、本に関する質問など本当に色々な質問を受けました。本に関する質問では、その人の求める情報に合ったものを提供することが求められるので、経験を必要とし難いと感じました。

中央図書館では、リクエスト担当・児童担当というように、ある程度職員の方々の業務が分かれています。地区館では規模が小さい分、常に2~3人に対応しているのでとても大変です。

お話会への参加はやはり緊張しました。中央図書館では、毎週木曜日にボランティアの方が中心となってお話会が行われています。私は小さい頃好きだった『ぐりとぐら』を読みました。有名な絵本なので「その本知ってるよ!」という子も居ましたが、お話を始めると静かに聞いてくれたのでホッとしました。お話会で読む絵本を選ぶ時には、読むのにかかる時間や絵がよく見えるかどうかなどを考えるので、とても気を遣うと思いました。

実際に図書館業務を経験してみて、図書館の仕事が多岐に渡っていて忙しいということ、蔵書数増加に伴う保存場所の問題、都立図書館との関係、予算の問題、民間への委託についてなど講義を聞いているだけではわからないような図書館のおかれている現状の厳しさや図書館の



お話会で子供たちに絵本を読む市村さん

実状について学べたと思います。また、司書課程で学んだことが実際にどう生きるのか、どう生かせることができるのか考える機会になったと思います。図書館で働くことの面白さや難しさを感じる事ができ、この仕事に魅力を感じました。

実習中はわからないことも多く、職員の方々に色々質問をしましたが、皆さんとても親切で丁寧に教えて下さったのでありがたかったです。また、館長さんは、実習生の図書館に対する意見も聞いて下さいました。利用者のことを考え、図書の選定やサービスなどに取り組んでいることを実感することができ、中央図書館に実習に行くことができよかったです。毎日とても充実していて、良い経験ができたと思います。



府中市立中央図書館前にて (左から2番目が市村さん)

# 学芸員課程



# 発掘の楽しさ

文学部 教授 土生田 純之

本年も8月23日から3週間にわたる、発掘調査を実施中である。これは群馬県高崎市に所在する山名古墳群の盟主墳である伊勢塚古墳（前方後円墳・全長75m）を対象として、一昨年から実施しているものである。本調査は、文学部人文学科歴史学専攻・考古学実習の野外実習授業でもある。この調査は山名古墳群の公園化計画に伴い、公園の造成に先立ち古墳群の様相を把握するために、市教育委員会が実施している発掘調査の一部である。このうち伊勢塚を市教委から委託されて同市の援助のもとに分担しているのである。

さて専修大学が高崎市で発掘調査を行うようになって、はや13年が経過した。当初は人文学科史学コースの選択必修科目として高崎市主催調査への1週間の参加であったが、1996年度からは分担とはいえ専修大学考古学研究室の主導による調査に変わっており、一昨年度には考古学研究室編集の第1冊目となる調査報告書を出版するまでになった（『剣崎長瀬西第5・27・35号墳発掘調査報告一専修大学文学部考古学研究報告第1冊一』。実は大学院設置に伴い大学院学生等研究室スタッフの充実がなったことから、選択科目に変更した上で期間も3週間に延長した。現在は上述の通り歴史学専攻となり、これまで以上に意識の高い学生が多くなっている。これによって従来ともすれば意欲の低い学生もみられたものが現在は充実しており、市教委からも高い評価をいただいている。ただ、従来以上に専門性の高い内容であることから、一般の学生には縁遠いものになったことを否定できない。そこで学生生活課とも共同して、発掘期間のうちの3日間を全学部の

学生に開放している。これは4年前から実施している「発掘調査体験ツアー」と称する企画で、希望する学生を募って発掘調査の楽しさを味わってもらおうというものである。幸いこの企画は好評で、毎年多くの学生が参加している。しかも参加後の感想はおおむね良好で、もっと長く発掘に参加したいという学生も多い。

いったい発掘調査の何がおもしろいのだろうか。残暑とはいえ、30度を超す炎天下のもとでの作業はつらいものである。考古学や古代史を専攻する学生ならともかく、法学部や商学部など他学部の学生までが嬉々として調査に従事している姿を見ることができる。以下では発掘調査の魅力（ここでは専門性の高い学問的な要求とそれに対する成果等からくる充実感は省く）について考えてみよう。

私事で恐縮であるが、私は小学生の頃から歴史が好きで、中学生の頃には将来考古学に関する職に就きたいと考えていた。そして高校1年生の夏休みには、あこがれの発掘調査に初めて参加した。大阪空港（伊丹空港）の滑走路延長に伴う調査で、勝部遺跡（大阪府豊中市）という有

名な弥生時代の遺跡だった。しかし参加当初の期待とは異なり、来る日も来る日も表土剥ぎと廃土の運搬ばかりで、土器が出土すると大学生に取って代わられたのである。もちろんそのような待遇に満足していたわけではない。それでも発掘調査の現場にたつて作業の一端を担っているという充実感のほかに、間近に遺構・遺物の出土を見、それらの存在を感じられるという喜びがあった。大学生になってはれて遺構の検出作業を任された時には、むしろ緊張と不安でなかなかはかどらなかったことを覚えている。あの高校1年生の体験以来、40年近く調査を続けているが、自分が掘った遺物が博物館に展示されているのを見た時など、「これは僕が掘ったものだ」と叫びたくなる衝動を何度か感じたことがある。そして微力ではあっても確かに自分の行為が役立っていることに誇りを感じたものである。そうした感動は、調査報告書に小さいながらも自分の名前を見た時の喜びとも通じる。また歴史を教科書よりも身近に感じることができ、いっそう興味がわくというよい連鎖も生じる。

発掘の喜びはこれに終わらない。調査の場合、合宿をすることが多



高崎市伊勢塚古墳にてミーティング

く、寝食をともにすることになる。学校で出会うだけの友達（たまには飲み会があったとしても）と24時間同じところにいるのだからどうしても長・短両所をさらけ出すことになる。従って中には馬の合わない人もいるが、意気投合して生涯の友になる人が見つかることもある。特に複数の大学の学生が参加する調査などは、普段知り得ない人と知り合い、これまでとは異なる考え方を知ることができて大変興味深いものである。私の友人の中にはこうして知り合った人も多い。考古学実習の履修生や体験ツアーの参加者も、夜の反省会とその後の歓談でたちまちうち解けて親しくなっていく姿を毎年目にしている。特に現在は友人を作ることが下手な学生が多いと言われており、発掘調査の効用は思わぬところにもあるわけである。

ところで、学部の上級生や大学院に進学すると各地の調査に参加することが多くなる。私の場合、学生時代を通じて福岡、山口、鳥取、大阪、京都、奈良、和歌山、

福井の2府6県の調査に参加した。そのような場合、休みの日には当地の遺跡見学はもちろんのこと、街の散策や名所巡りが楽しみであった。また名物を食することも密かな楽しみであった。山口県防府市の周防国衙の発掘調査に参加した時には、「白銀」「秋芳」（かまぼこ）の弾力性に驚き、福井の調査では「羽二重餅」に惚れ込んで何kgも体重が増えたことがなつかしくさえある。また鳥取県の調査では近在の農家の人からスイカを百個ももらい、うれしいような困ったような複雑な気持ちになったこともある。もちろん見聞を広めるという意味では、長い期間滞在するのだから単なる旅行よりも意義深いものがある。特に作業員のおじさんやおばさんとかわす会話は、方言に対する興味をはじめ楽しいものであった。福井の調査の時には婿養子の話がきて目を回したこともあった。

以上のように発掘調査の楽しみは多岐にわたるが、実のところ何かに夢中になれることを見いだす

喜びが究極の喜び、楽しさなのではないだろうか。毎日自分に甘えて無為な日々を過ごすことも時にはあろう。むしろそうした時間は必要でさえある。しかし、ある意味での強制力（もちろん他者からの強制ではなく、自らの内から生じるやる気の高揚という意味であるが）がなければ、楽なほう、易きに流れる日々をいつまでも送ることになるのではないだろうか。いくら興味があっても一人で続けるには困難なことも多い。発掘においても日によっては、「やる気」がでないこともあろう。そんな時にも仲間が元気に調査に向かう姿を見たら、知らず知らずのうちに気に入ってくるものである。もちろん全く発掘調査に興味があれば致し方ないが、そもそも興味があるから参加するのであり、夢中に調査に向かう時、そうした状態になれる自分自身に大きな自信を持つことができるのではないだろうか。

まず発掘調査に参加しよう。そこには何かが待っているから。



高崎市伊勢塚古墳発掘風景

# 美術館存続の危機

川崎市市民ミュージアム 学芸員 杉田 真珠

美術館や博物館で学芸員として働こうと考え、日々、資格取得にむけて努力をしている学生の方にはあまりうれしくない話かもしれません。今、各地の美術館、博物館はその存在意義を問われ、存続の危機にさらされています。東京都の場合、現代美術館や江戸東京博物館が、建設や作品購入の予算が大きかった割には入館者が少ない等の評価を受けていたことを記憶している方もいます。また最近では、芦屋市が2006年度までに芦屋市立美術館の運営を民間に委託する、引き受けてくれる民間団体がなかった場合は美術館の廃止やコレクションの売却も視野に入れるという発表をし、美術界全体に激震が走りました。地方自治体が運営する施設をこれからは民間に委託してもいいという法案ができ、このような話が各地で出るようになりました。私が勤務する川崎市市民ミュージアムは、市が直接に運営しているのではなく、市が出資金の多くを出した財団法人によって運営されている「公設民営」型の美術館です。財団法人にとっては市は一番のスポンサーです。川崎市市民ミュージアムの場合も、芦屋市立美術館と似たような状況になってきました。地方自治体の出資法人が運営する施設を、民間でも運営できる制度—指定管理者制度—が現実化してきましたので、将来的には市民ミュージアムも民間団体の運営に委ねられる可能性も出てきました。運営を委託された民間団体がもし美術館の

コレクションに価値を見出してくれなかった場合、このままのコレクションでは民間に委託できないと市が判断した場合など、法的手続きに則ってそれを破棄する可能性も包含していますし、新たに運営を任された団体がそれまで美術館が蓄積してきた研究成果などが不要となれば、その情報も破棄されていくかもしれません。具体的には、コレクションの管理をしたり研究していた学芸員が不要になると言われる可能性もあるわけです。新規の学芸員の採用など、なくなっていくかもしれません。

なぜ、このような厳しい状況になっていったのかといえば、理由はさまざまですが、全国的に言えることでは美術館に来てくださるお客さまの数が減ったことが一因だと思います。美術館の運営は、本来、利潤を追求するような事業ではありません。人の心を豊かにし、文化芸術を育むというのは、金銭的な儲けとは無縁のところもあります。美術館の運営には、多額の資金がかかるわりには儲けがあまりありません。そこにお客さまの減少が加わり、美術館は何のために存在するのかが問われてきました。大勢のお客さまで賑わう企画展示というのも確かにあります。でも、それには考えられないような莫大な準備資金がある企画だったり、または学術的な見地からは少し離れた、お遊び要素の強い企画だったりすることもあります。客さえ入れればいとばかりに、美術館が今までの研究成果やコレクションの蓄積を無視した、ただ民衆に迎合しただけの展示をする建物になってもいいのかどうか、



を考える時期になったのだと思います。

今、現在働いている学芸員も含めて、作品や作家研究など美術史研究だけの学芸活動をしていればいい、というわけにはいかなくなりました。当然、私たちは常設展示、企画展示などで日頃の研究成果を、目に見える形にして発表していかななくてはなりません。そのための研究はかなりの比重を置かざるをえませんが、その発想や内容を考える時点から、限られた予算の中でいかに多くのお客さまの知的興味を満足させられるかを、つねに考えていかななくてはなりません。また、美術館という施設は何のためにこの世に存在するのか、文化財に対して私たち人類がとるべき態度はどのようなものなのかを、常に考えていく必要があります。それにお客さまが減ってきた本当の原因を詳細に分析していく必要もあります。

ただ単位を取得し学芸員の資格をとれば、いつかは学芸員になれるというものではないことぐらいは、みなさんは既にお気づきだと思いますが、現実には学内で聞く噂以上に厳しいです。それでも美を求め、知を求めていくことが人類の重要な仕事であるならば、学芸員の仕事は多少は形を変えていくでしょうが、その一助として不可欠であると私は信じています。



# 博物館実習を終えて

実習館：東村山ふるさと歴史館 文学部人文学科3年 朝倉 剣太

私は東村山ふるさと歴史館で実習をさせて頂きました。実習では歴史館ということもあり、考古資料や歴史資料の取り扱い方法や、わら細工体験などをさせて頂きました。また写真撮影や図書の整理など資料の保存に関する基本的なことも教えて頂きました。ですが、実習の大半は「れきしかん夏まつり」の企画会議に費やされました。この「れきしかん夏まつり」というイベントは地域の人々に東村山のことを知ってもらうための企画です。その夏まつりにおいて実習生はひとつのブースを任せられました。私たちは来館者に東村山の歴史・自然などをこのイベントを通じて伝えなければいけません。何かをやらされるのではなく、自分たちでどのような企画にするか、何を伝えたいのかを考えることは非常に難しかったです。また、東村山ふるさと歴史館は団地の中に建っているということもあり、来館者の年齢層は幼稚園児から小学校低学年が多いということも考慮しなければいけません。これらいくつかの前提条件を踏まえたうえで企画会議を行いました。しかし実習生はお互いに初めて知り合ったばかりですし、11人もいたのでなかなか話がまとまりませんでした。何時間も話し合いが続けば、いくつも案がでますが、どのように制作するかなど具体的なことが決まらずに時間が経っていききました。約一週間あったうちの五日間は企画会議であったと言えます。私たちが企画した内容は以下の通りです。

室内に東村山の森を再現し、そこに生息する動物や昆虫などを探してもらうこと。参加者が見つけた動物や昆虫の傍にはその生き物と同じ絵が描かれたカードがあり、



東村山の自然再現、カード（昆虫・動物等）探索

そのカードを集めて最終的には自分だけの図鑑を作ってもらうことが目的でした。参加者に発見する楽しさ、自分の力で図鑑を完成させる達成感を味わってもらい、できれば実際の東村山の自然へと足を運んで頂けたらと思われました。当日までの間は図鑑の表紙、生き物のカード、フィールドとなる森作りの企画などを行い、何度も学芸員の方に提出しました。その度に色々な疑問・問題点が指摘され、何度もなく会議をしました。フィールドとなる森を何で作るのか、その材料はどのくらいの量が必要なのか、木の作り方からカードの学習的な面などの細部まで具体性が求められ、非常に苦労したことを覚えています。そして夏まつりの二日前に材料を買い、本格的に作り始めました。そこでも製作にあたって多々問題が生じてしまいました。この問題もしっかりと企画段階で話し合っていれば解決できた問題であったので、自分たちの甘さを痛感しました。

結局、夏まつり開始の直前まで準備をしてい

て、全体の流れや調整ができないまま始まってしまいました。実際に来館されたお客様の中には付き添いも必要な子供と一緒にカードを探してあげなければいけない子供も多くいたので、大勢の方が来館されていた

ら対処しきれなかったと反省しています。また、子供たちにゲームの流れや何を目的としているのかなどを簡単に説明することが難しかったです。子供たちはカードを見つけることに夢中で、何度も来てくれる子供もいました。図鑑が完成すると、見せに来てくれた子供もいました。そのときのありがたうという言葉は苦労した甲斐があったと思いました。

来館者が実際に参加してみて、初めて問題が生じた部分もありました。それは私たちの企画の甘さ、経験の無さだと思えます。これから社会に出れば、初めての人と企画・製作をする機会が多々あると思えます。今回の実習で経験したことが次にいかせるように頑張りたいと思います。



図鑑作り

# 博物館実習を終えて

実習館：すどう美術館 法学部法律学科3年 増田 明希

私は東京銀座にある「すどう美術館」で実習をさせていただきました。週一回定期的に行われた実習は約三ヶ月間行われ、内容は主に展示換えです。初めての实習はレイハントさんというオーストラリアの女流作家の展覧会でした。明るい色彩にかわいらしい猫・・・それが一堂に展示されたときは何ともいえない満足感があり、まだ一般公開されていない作品を自分が真っ先に見ていることがとても幸せに感じました。その他の作業としては友の会の方へ次々展覧会のDMを発送しました。美術館の運営が友の会の方々の協力によって成り立っていることを実感し、多くの方が美術に関心を持っていることを嬉しく思いました。

芸術というと自分とは縁遠いもの、何がなんだか分からない、という人が多いのではないのでしょうか。美術館で絵画の鑑賞というと、どこか堅苦しい感じがするのは私だけでしょうか。大型の美術館に行っては人を見に行くような混雑振りで、ゆっくり落ち着いてみる事が出来ない、というのが現実です。しかしすどう美術館はどうでしょう。来館して下さるお客様は「こんにちは」といって、まるで仲の良いご近所さんの家へ来るかのようにやってきます。美術館でありながら何度でも足を運びたくなるような暖かい雰囲気です。すどう美術館は入場料を取らないし、フロアには感じの良い椅子とテーブル、さらにお茶が出てきます(お菓子付)。そのような接客をするのも実習の大事な内容です。館長やスタッフの方は気軽にお客様に話し掛け、お客様がゆっくりと絵を鑑賞できるようにしていました。温かいお

茶を飲みホッと椅子に腰掛けながら、自分の好きな絵を独占するのは実にいい気分です。大型の美術館にはまずありえないことでしょう。来館者の視点で展覧会を行うという館の方針が行き届いているように感じました。絵は本来こんな風に人の心を穏やかに癒すもの、絵を囲みながら人と笑い合ったり合うもの、すどう美術館には本来あるべき姿があるような気がしました。

すどう美術館の常設展示である菅創吉氏の作品は、見れば見るほど心惹かれました。特に私は「JOY」という作品が好きです。天にかざす両手は生きる喜びを表し、奥深い白のカラーと丸みを帯びたフォルムは、菅氏の豊かで温かい人柄を感じさせます。このように作品を見て感じたことを言葉で表現する、ということも実習で教えていただいたことです。作品を見てただなんとなく「この絵好きだな」と思うことはすごく大切なことで、鑑賞する上での原点であると思います。しかし作品が何を伝えようとしているのか・・・それを読み取り文章にすることは学芸員としてとても重要なことであると思いました。

一般的に言われているように、日本人は芸術に



対する意識が低く、作家に与えられたチャンスも援助も欧米諸国に比べ少ないようです。地方自治体の美術館を閉鎖するという話もあるというから驚きです。小学校のときから美術や音楽に触れ、幼い頃から芸術に親しんでいるのに何故だろうと思います。逆にそれがいけないのだろうか・・・とも感じます。評価され、優劣をつけられてしまうことが大人になって絵から遠ざかる理由だとも考えられるからです。

実習を通して学んだことは計り知れませんが、博物館実習が単なる「学芸員のための実習」としてではなく、今後の私の進路に関して大役役に立ちました。貴重な経験を心から感謝し、今後の勉強に生かしていきたいと思っています。



常設展示菅創吉氏の作品

# データ編



## 平成15年度 資格課程履修者数

学部・学科	年次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
教 育	経 済	経 済 学	49	17	41	5	36	6	34	4	160	32	192
		国 際 経 済	17	—	25	—	8	—	10	—	60	—	60
	法	法 律	64	11	51	11	39	10	49	8	203	40	243
		経 営	21	—	36	—	25	—	34	—	116	—	116
商	情 報 管 理	—	—	—	—	1	—	1	—	2	—	2	
	商 業 計 画	29	12	46	3	40	6	32	7	147	28	175	
職 業	文 学	会 計	3	—	8	—	1	—	6	—	18	—	18
		国 文	—	—	—	—	—	—	33	—	33	—	33
	英 米 文	—	—	—	—	—	—	28	—	28	—	28	
	人 文	54	—	37	—	31	—	29	—	151	—	151	
	心 理	3	—	2	—	1	—	3	—	9	—	9	
	日 本 語 日 本 文	59	—	47	—	65	—	—	—	171	—	171	
ネットワー	ク情報	英 語 英 米 文	29	—	47	—	28	—	—	—	104	—	104
		ネットワー	25	—	24	—	20	—	—	—	69	—	69
大 学	院	16	2	—	—	—	—	—	—	16	2	18	
科 目 等	履 修 生	—	58	—	—	—	—	—	—	0	58	58	
小 計		369	100	364	19	295	22	259	19	1,287	160	1,447	
合 計			469		383		317		278		1,447		

学部・学科	年次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
司 法	経 済	経 済 学	8	1	5	2	6	1	2	—	21	4	25
		国 際 経 済	5	—	—	—	3	—	—	—	8	—	8
法	律	法 律	11	2	6	3	4	3	7	—	28	8	36
		経 営	7	—	2	—	4	—	4	—	17	—	17
商	情 報 管 理	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
		商 業 計 画	1	2	4	2	3	2	2	2	10	8	18
書 院	文 学	会 計	1	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2
		国 文	—	—	—	—	—	—	18	—	18	—	18
	英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	
	人 文	15	—	21	—	11	—	6	—	53	—	53	
	心 理	1	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2	
	日 本 語 日 本 文	27	—	28	—	36	—	—	—	91	—	91	
ネットワー	ク情報	英 語 英 米 文	—	—	5	—	3	—	—	8	—	8	
		ネットワー	6	—	3	—	3	—	—	—	12	—	12
大 学	院	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
科 目 等	履 修 生	—	9	—	—	—	—	—	—	0	9	9	
小 計		84	14	76	7	73	6	40	2	273	29	302	
合 計			98		83		79		42		302		

学部・学科	年次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
司 法	経 済	経 済 学	—	—	1	—	5	—	—	—	6	—	6
		国 際 経 済	—	—	1	—	—	—	3	—	4	—	4
法	律	法 律	1	1	2	—	—	5	1	2	4	8	12
		経 営	1	—	1	—	1	—	2	—	5	—	5
商	情 報 管 理	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0
		商 業 計 画	—	—	9	—	4	—	5	—	18	—	18
書 院	文 学	会 計	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
		国 文	—	—	—	—	—	—	9	—	9	—	9
	英 米 文	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2	
	人 文	4	—	3	—	10	—	12	—	29	—	29	
	心 理	—	—	1	—	—	—	2	—	3	—	3	
	日 本 語 日 本 文	14	—	12	—	13	—	—	—	39	—	39	
ネットワー	ク情報	英 語 英 米 文	—	—	—	—	2	—	—	—	2	—	2
		ネットワー	—	—	2	—	1	—	—	—	3	—	3
大 学	院	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
科 目 等	履 修 生	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	
小 計		22	1	32	0	36	5	37	2	127	8	135	
合 計			23		32		41		39		135		

学部・学科	年次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
学 部	経 済	経 済 学	4	1	3	1	5	2	2	—	14	4	18
		国 際 経 済	—	—	—	—	2	—	3	—	5	—	5
法	律	法 律	1	1	5	4	2	—	4	1	12	6	18
		経 営	3	—	1	—	4	—	6	—	14	—	14
商	情 報 管 理	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0
		商 業 計 画	1	—	2	1	2	—	2	—	7	1	8
芸 員	文 学	会 計	—	—	1	—	1	—	1	—	3	—	3
		国 文	—	—	—	—	—	—	23	—	23	—	23
	英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	
	人 文	34	—	31	—	40	—	22	—	127	—	127	
	心 理	—	—	—	—	2	—	1	—	3	—	3	
	日 本 語 日 本 文	5	—	11	—	19	—	—	—	35	—	35	
ネットワー	ク情報	英 語 英 米 文	1	—	5	—	4	—	—	10	—	10	
		ネットワー	1	—	1	—	2	—	—	—	4	—	4
大 学	院	6	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6	
科 目 等	履 修 生	—	2	—	—	—	—	—	—	0	2	2	
小 計		56	4	60	6	83	2	64	1	263	13	276	
合 計			60		66		85		65		276		

平成15年度 教員免許状取得状況一覽

免許種類	中学一種				高校一種				中学専修				高校専修				合計	
	社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語		英語
生田	経済学科	20	19	21	18	2	41											61
	授与件数	19	19	21	16	2	39											58
	国際経済学科	7	7	7	7	1	15											22
	授与件数	7	7	7	7	1	15											22
	経営学科					22	45											45
	授与件数					20	40											40
	情報管理学科																	
	授与件数																	
	商業学科	9	9	9	10	12	31											40
	授与件数	9	9	9	8	8	25											34
	会計学科					6	6											6
	授与件数					3	3											3
	国文学科	21	19	21		28	32											53
	授与件数	19	20	19		23	27											46
英米文学科		20				25											45	
授与件数		20				25											45	
人文学科	16		16	16		35											51	
授与件数	16		16	16		35											51	
心理学科					2	2											2	
授与件数					2	2											2	
経済学																		
授与件数																		
経営学																		
授与件数																		
商学																		
授与件数																		
文学																		
授与件数																		
小計	52	21	20	93	56	53	22	44	28	4	25	292	1	2	1	3	1	338
授与件数	51	19	20	90	56	49	20	34	23	4	25	211	1	2	1	3	1	314
法学科	23			23	30	41						71						94
授与件数	22			22	29	40						69						91
経済学科	1			1		1						1						2
授与件数																		
法学科	2		2	2	1	7						8						10
授与件数	2		2	2	1	6						7						9
商業学科	1		1	1	1	1		3				5						6
授与件数								3				4						4
法学												2						3
授与件数												2						5
経済学																		
授与件数																		
研究科																		
授与件数																		
商学	1		1	1														1
授与件数	1		1	1														1
授与件数	1		1	1														1
科目等履修生	19	2	21	14	17	5	2	5	2		38							59
授与件数	18	2	20	11	13	5	1	5	1		30							50
授与件数	47	2	49	46	67	8	2	8	2		123	3		4			4	179
授与件数	43	2	45	41	60	8	1	8	1		110	3		4			4	162
授与件数	99	23	20	142	102	22	30	52	30	4	25	355	4	2	1	3	1	517
授与件数	94	21	20	135	97	20	24	42	24	4	25	321	4	2	1	3	1	476
授与件数																		

# 平成15年度 教育実習先一覧 (生田)

データ編

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道札幌南陵高等学校	地理歴史	経済	経済
	北海道	北海道釧路北陽高等学校	商業	経営	経営
	北海道	北海道釧路北陽高等学校	英語	文	英米文
	北海道	北海高等学校	国語	文	国文
	青森県	大間町立大間中学校	社会	経済	経済
	青森県	青森県立八戸商業高等学校	商業	商	商業
	青森県	青森県立三本木高等学校	英語	文	英米文
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	商	商業
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	商	商業
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	水沢市立南中学校	社会	商	商業
	岩手県	石鳥谷町立石鳥谷中学校	英語	文	英米文
	岩手県	胆沢町立若柳中学校	英語	文	英米文
	秋田県	秋田県立能代北高等学校	国語	文	国文
	山形県	山形県立酒田商業高等学校	商業	商	商業
	山形県	山形市立商業高等学校	商業	商	商業
	山形県	山形市立商業高等学校	商業	商	会計
	福島県	福島県立郡山高等学校	地理歴史	経済	経済
	福島県	福島県立福島商業高等学校	公民	経済	経済
	福島県	棚倉町立棚倉中学校	社会	商	商業
	福島県	岩瀬村立岩瀬中学校	社会	商	商業
	福島県	会津若松市立第四中学校	国語	文	国文
	関東	茨城県	茨城県立石岡商業高等学校	商業	経営
茨城県		茨城県立日立第一高等学校	国語	文	国文
茨城県		鹿嶋市立大野中学校	国語	文	国文
茨城県		茨城県立水海道第一高等学校	英語	文	英米文
茨城県		真壁町立桃山中学校	英語	文	英米文
茨城県		茨城高等学校	地理歴史	文	人文
茨城県		茨城県立並木高等学校	地理歴史	文学	歴史学
茨城県		取手市立戸頭中学校	社会	文学	歴史学
栃木県		佐野市立西中学校	国語	文	国文
群馬県		群馬県立伊勢崎高等学校	地理歴史	経済	経済
群馬県		赤城村立南中学校	社会	経済	経済
群馬県		群馬県立桐生女子高等学校	国語	文	国文
群馬県		前橋市立桂萱中学校	国語	文	国文
埼玉県		さいたま市立尾間木中学校	社会	経済	国際経済
埼玉県		星野女子高等学校	地理歴史	経済	国際経済
埼玉県		北本市立東中学校	社会	経済	国際経済
埼玉県		狭山市立狭山台中学校	国語	文	国文
埼玉県		岩槻市立城南中学校	英語	文	英米文
埼玉県		埼玉県立大宮光陵高等学校	英語	文	英米文
埼玉県		埼玉県立伊奈学園総合高等学校	英語	文	英米文
埼玉県		埼玉県立伊奈学園総合高等学校	地理歴史	文	人文
埼玉県		春日部共栄高等学校	公民	文	心理
埼玉県		埼玉県立越ヶ谷高等学校	国語	文学	日本語・日本文学
千葉県		船橋市立芝山中学校	社会	経済	経済
千葉県	柏市立田中中学校	社会	経済	経済	
千葉県	千葉県立津田沼高等学校	公民	経済	国際経済	
千葉県	銚子市立銚子高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
千葉県	千葉県立白井高等学校	情報	経営	経営	
千葉県	千葉市立稲毛高等学校	情報	経営	経営	
千葉県	千葉県立館山高等学校	商業	経営	経営	
千葉県	千葉県立君津商業高等学校	商業	経営	経営	
千葉県	専修大学松戸高等学校	情報	経営	経営	
千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	文	人文	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	文	人文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文学	歴史学
	千葉県	天津小湊町立天津中学校	社会	商	商業
	千葉県	千葉県立磯辺高等学校	公民	商	商業
	千葉県	千葉県立磯辺高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	鋸南町立鋸南中学校	国語	文	国文
	千葉県	野田市立川間中学校	英語	文	英米文
	千葉県	千葉県立千葉西高等学校	英語	文	英米文
	千葉県	東金市立東金中学校	社会	文	人文
	千葉県	千葉県立君津高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	千葉県立若松高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	千葉県立桜見川高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	千葉県立千葉南高等学校	国語	文学	日本語・日本文学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	経営	経営
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	経営	経営
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	商業
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	商業
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	心理
	東京都	渋谷区立鉢山中学校	社会	経済	経済
	東京都	江戸川区立清新第二中学校	社会	経済	経済
	東京都	杉並区立荻窪中学校	社会	経済	経済
	東京都	板橋区立板橋第五中学校	社会	経済	経済
	東京都	東亜学園高等学校	公民	経済	経済
	東京都	東京都立城東高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	福生市立福生第二中学校	社会	経済	経済
	東京都	文京区立第九中学校	社会	経済	経済
	東京都	東京都立南平高等学校	公民	経済	国際経済
	東京都	立川市立立川第六中学校	社会	経済	国際経済
	東京都	東京都立赤坂高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立第一商業高等学校	情報	経営	経営
	東京都	あきる野市立五日市中学校	社会	商	商業
	東京都	東京都立農芸高等学校	公民	商	商業
	東京都	東京都立五日市高等学校	商業	商	会計
	東京都	二松学舎大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立北多摩高等学校	国語	文	国文
	東京都	安田学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	日本大学第二高等学校	国語	文	国文
東京都	東京都立昭和高等学校	英語	文	英米文	
東京都	東京都立日野台高等学校	英語	文	英米文	
東京都	啓明学園高等学校	英語	文	英米文	
東京都	東京都立成瀬高等学校	英語	文	英米文	
東京都	東京都立成瀬高等学校	地理歴史	文学	歴史学	
東京都	江戸川区立葛西第二中学校	社会	文	人文	
東京都	東洋高等学校	地理歴史	文	人文	
東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史	文	人文	

Passo a Passo

平成15年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	経済	経済
	神奈川県	相模原市立大沢中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立金井高等学校	地理歴史	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立金井高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	相模原市立鶴野森中学校	社会	経済	国際経済
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	地理歴史	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	地理歴史	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立鎌倉高等学校	社会	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立白山高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立六ッ川高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立平塚商業高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	情報	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	公民	商	商業
	神奈川県	横浜手女子高等学校	商業	商	商業
	神奈川県	神奈川県立住吉高等学校	地歴・公民	商	商業
	神奈川県	藤沢翔陵高等学校	商業	商	会計
	神奈川県	厚木市立東名中学校	国語	文	国文
	神奈川県	捜真女学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	横浜市立上菅田中学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立大和南高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	秦野市立本町中学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立逗子高等学校	英語	文	英米文
神奈川県	秦野市立西中学校	英語	文	英米文	
神奈川県	神奈川県立大和高等学校	英語	文	英米文	
神奈川県	相洋高等学校	地理歴史	文	人文	
山梨県	昭和町立押原中学校	社会	商	商業	
山梨県	山梨県立富士河口湖高等学校	英語	文	英米文	
北陸	富山県	富山県立富山商業高等学校	商業	商	商業
	富山県	富山県立泊高等学校	地理歴史	文	人文
	石川県	石川県立七尾商業高等学校	商業	経営	経営
	石川県	星稜高等学校	公民	商	商業
信越	新潟県	新潟県立巻高等学校	公民	経済	経済
	新潟県	新潟県立新発田商業高等学校	商業	経営	経営
	新潟県	弥彦村立弥彦中学校	英語	文	英米文
	新潟県	新潟県立新発田高等学校	地理歴史	文	人文
	新潟県	新潟県立新発田高等学校	地理歴史	文	人文
	新潟県	新潟県立新潟中央高等学校	地理歴史	文	人文
	長野県	長野県諏訪実業高等学校	商業	経営	経営
	長野県	長野県長野商業高等学校	商業	商	商業
	長野県	長野県飯山南高等学校	公民	商	商業
	長野県	長野県長野西高等学校	国語	文	国文
長野県	長野県諏訪二葉高等学校	地理歴史	文	人文	
東海	岐阜県	岐阜県立郡上北高等学校	商業	経済	国際経済
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	経営	経営
	岐阜県	岐阜県立岐阜工業高等学校	情報技術基礎	経営	経営
	岐阜県	中京高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立富士宮北高等学校	情報	経営	経営
	静岡県	静岡県立浜松城北工業高等学校	情報	経営	経営
	静岡県	静岡県立池新田高等学校	情報	経営	経営
	静岡県	静岡県立御殿場高等学校	商業	商	会計

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東海	静岡県	静岡県立静岡西高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立三島北高等学校	国語	文	国文
	静岡県	三島市立錦田中学校	英語	文	英米文
	静岡県	静岡県立静岡東高等学校	公民	文	心理
	愛知県	滝学園高等学校	地理歴史	経済	経済
	三重県	海星高等学校	地理歴史	経済	国際経済
近畿	大阪府	大阪府立吹田高等学校	地理歴史	経済	経済
	和歌山県	和歌山県立新宮高等学校	地理歴史	文	人文
中国	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	商業	商	会計
	島根県	松江市立第一中学校	社会	経済	経済
	岡山県	大原町東栗倉村学校組合立大原中学校	地歴・公民	商	商業
	広島県	大野町立大野東中学校	社会	商	商業
	広島県	広島県立広島井口高等学校	国語	文	国文
	山口県	山口県立徳山商業高等学校	商業	経営	経営
四国	香川県	香川県立丸亀城西高等学校	商業	商	会計
	香川県	香川県立琴平高等学校	国語	文	国文
	香川県	高松市立紫雲中学校	国語	文学	日本語学
	高知県	高知学芸高等学校	国語	文	国文
九州・沖縄	福岡県	福岡県立修猷館高等学校	情報	経営	経営
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	経済	経済
	熊本県	専修大学玉名高等学校	商業	経営	経営
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	文	人文
	熊本県	熊本県立氷川高等学校	公民	経済	経済
鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	商業	商	商業	

## 平成15年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	青森県立八戸工業高等学校	公民	法	法律
	青森県	青森県弘前市立第二中学校	社会	法	法律
	岩手県	岩手県胆沢町立若柳中学校	社会	法	法律
	宮城県	宮城県仙台市立八木山中学校	社会	法	法律
	福島県	福島県会津若松市立第三中学校	社会	法	法律
	福島県	福島県郡山市立郡山第三中学校	社会	法	法律
関東	栃木県	栃木県立矢板東高等学校	公民	法	法律
	群馬県	群馬県私立東京農業大学第二高等学校	公民	法	法律
	群馬県	群馬県私立前橋育英高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県立本庄高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	埼玉県私立開智高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県私立本庄東高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	春日部市立武里中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県国分高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県立成東高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県私立専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
東	千葉県	千葉県私立千葉敬愛高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	千葉県千葉市立草野中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県白井市立白井第三小学校	小学校全科	法	法律
	東京都	東京都私立江戸川女子高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都私立専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都私立専修大学附属高等学校	公民	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	
関東	東京都	東京都私立東京学園高等学校	世界史	法	法律	
	東京都	東京都板橋区立志村第一中学校	社会	法	法律	
	東京都	東京都東村山市立東村山第二中学校	社会	法	法律	
	東京都	東京都江戸川区立松江第二中学校	社会	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	公民	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	公民	法	法律	
	山梨県	山梨県私立甲府西高等学校	世界史	法	法律	
	北陸	福井県	福井県私立北陸高等学校	公民	法	法律
	信越	長野県	長野県大町高等学校	日本史	法	法律
		長野県	長野県屋代高等学校	日本史	法	法律
長野県		長野県私立松商学園高等学校	公民	法	法律	
東海	静岡県	静岡県立御殿場南高等学校	公民	法	法律	
	静岡県	静岡県立下田北高等学校	地理歴史	法	法律	
	静岡県	静岡県清水市立興津中学校	社会	法	法律	
	静岡県	静岡県私立藤枝明誠高等学校	公民	法	法律	
	愛知県	愛知県立旭丘高等学校	公民	法	法律	
	三重県	三重県私立高田高等学校	日本史	法	法律	
	中国	岡山県	岡山県立岡山操山高等学校	公民	法	法律
四国	高知県	高知県私立高知学芸高等学校	公民	法	法律	
九州	大分県	大分県立大分舞鶴高等学校	公民	法	法律	

## 平成15年度 教育実習先一覧（2部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	青森県立青森商業高等学校	商業	商	商業
	山形県	山形県立新庄北高等学校	公民	法	法律
関東	茨城県	東洋大学附属牛久高等学校	公民	法	法律
	栃木県	茂木町立中川中学校	社会	法	法律
	栃木県	栃木県立真岡高等学校	国語	履修生	
	埼玉県	所沢市立富岡中学校	国語	履修生	
	埼玉県	埼玉県立飯能高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県立蓮田高等学校	公民	商	商業
東	埼玉県	大宮開成高等学校	情報	履修生	
	千葉県	市川市立南行徳中学校	社会	履修生	
	千葉県	松戸市立新松戸北中学校	社会	履修生	
	千葉県	鎌ヶ谷市立第三中学校	社会	履修生	
	東京都	福生市立福生第二中学校	社会	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	江東区立第三亀戸中学校	社会	法	法律
	東京都	瑞穂町立瑞穂中学校	社会	履修生	
	東京都	修徳学園中学校	社会	履修生	
	東京都	駿台学園（定時制）高等学校	公民	経済	経済
	東京都	東京都立田園調布高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都立府中西高等学校	公民	履修生	
	東京都	東京都立松が谷高等学校	公民	履修生	
	東京都	東京都立第一商業高等学校（定時制）	商業	履修生	
	東京都	専修大学附属高等学校	社会	履修生	
	神奈川県	川崎市立玉川（ギョクセン）中学校	英語	履修生	
神奈川県	相洋高等学校	商業	商	商業	
東海	新潟県	新潟市立東石山中学校	社会	経済	経済

## 平成15年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東東	千葉県	佐倉市立志津図書館	法	法律
	千葉県	柏市立図書館	法	法律
	千葉県	柏市立図書館	商	商業
	千葉県	茂原市立図書館	法	法律
	東京都	千代田区立千代田図書館	法	法律
	東京都	文京区立小石川図書館	商	商業
	東京都	町田市立中央図書館	文	国文

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	東京都	立川市中央図書館	履修生	
	神奈川県	相模原市立相模大野図書館	経営	経営
	神奈川県	相模原市立相模大野図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立麻生図書館	文	国文
	神奈川県	厚木市立中央図書館	文	国文
	信越	新潟県	金井町立金井図書館	文
新潟県		新潟市立沼垂図書館	文	国文

## 平成15年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
東北	北海道	市立函館博物館	文	人文
	北海道	北海道開拓記念館	文	人文
	山形県	山形美術館	文	日本語日本文
	岩手県	碧祥寺博物館	経営	経営
	岩手県	盛岡市こども科学館	文	人文
	岩手県	盛岡市こども科学館	文	人文
関東東	茨城県	那珂町歴史民俗資料館	文	英語英米文
	茨城県	茨城県近代美術館	文	人文
	栃木県	栃木県立博物館	経営	経営
	栃木県	佐野市郷土博物館	文	人文
	群馬県	高崎市歴史民俗資料館	文	人文
	群馬県	東毛歴史資料館	文	人文
	埼玉県	本庄市立歴史民俗資料館	経営	経営
	千葉県	千葉県立安房博物館	文	日本語日本文
	千葉県	千葉県立上総博物館	文	英語英米文
	千葉県	鎌ヶ谷市立郷土資料館	文	人文
	千葉県	千葉市立加賀利貝塚博物館	文	人文
	千葉県	船橋市郷土資料館	文	人文
	千葉県	千葉県立房総のむら	文	心理
	東京都	青梅市郷土博物館	経営	経営
	東京都	切手の博物館	経営	国際経営
	東京都	渋谷区立松涛美術館	経営	国際経営
	東京都	渋谷史料館	経営	経営
	東京都	すどう美術館	経営	経営
	東京都	すどう美術館	文	日本語日本文
	東京都	明治大学考古学博物館	経営	経営
	東京都	東京都葛西臨海水族館	商	商業
	東京都	府中市郷土の森博物館	商	商業
	東京都	新宿歴史博物館	文	日本語日本文
	東京都	杉並区立郷土博物館	文	日本語日本文
東京都	東京都井の頭自然文化園	文	日本語日本文	
東京都	国立音楽大学楽器学資料館	文	英語英米文	
東京都	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館	文	英語英米文	
東京都	東村山ふるさと歴史館	文	英語英米文	
東京都	葛飾区郷土と天文の博物館	文	人文	
東京都	国立科学博物館	文	人文	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	
関東東	東京都	たばこと塩の博物館	文	人文	
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	文	人文	
	東京都	調布市武者小路実篤記念館	文	人文	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	人文	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	人文	
	東京都	中村研一記念美術館	文	人文	
	東京都	中村研一記念美術館	文	心理	
	東京都	バルテノン多摩	文	人文	
	東京都	日野市ふるさと博物館	文	人文	
	東京都	福生市郷土資料館	文	人文	
	東京都	目黒区寄生虫館	文	人文	
	東京都	足立区立郷土資料館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	出光美術館	文学	日本語日本文学	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	経済	経済	
信越	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	日本語日本文	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	日本語日本文	
	神奈川県	相模原市立博物館	経済	経済	
	神奈川県	シルク博物館	商	商業	
	神奈川県	シルク博物館	文	人文	
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語日本文	
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	日本語日本文	
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	人文	
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文	人文	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	人文	
	北陸	富山県	砺波市立美術館	経済	経済
	信越	新潟県	新潟市美術館	文	国文
		新潟県	新潟市美術館	文	人文
		新潟県	柏崎市立博物館	文学	歴史学
長野県		茅野市八ヶ岳総合博物館	文	人文	
東海		静岡県	静岡市立日本平動物園	経済	国際経営
	静岡県	静岡市立登呂博物館	文	日本語日本文	
	静岡県	戸田村立造船郷土資料博物館	文	人文	
	愛知県	名古屋見晴台考古資料館	文	人文	
	愛知県	熱田神宮宝物館	履修生		
	中国九州	岡山県	岡山県立博物館	文学	日本語日本文学
熊本県	熊本市立熊本博物館	文	人文		

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成12年度	経済・経済	鹿児島県吾平町立吾平中学校	専任	社会
	法・法律	山梨県立甲府昭和高等学校	専任	公民
	平12 経営・経営	香川県立丸亀城西高等学校	常勤	商業
	平12 経営・経営	長野県赤穂高等学校	専任	商業
	平12 経営・経営	新潟県立栃尾高等学校	非常勤	商業
	平6 商・商業	北海道豊浦高等学校	専任	商業
	平11 商・商業	東京都立五日市高等学校	非常勤	商業
	平12 商・商業	倉敷市立児島第一高等学校	専任	商業
	平12 商・商業	静岡県立小笠高等学校	非常勤	商業
	平12 文・国文	福島県立光南高等学校	期限付	国語
	平12 文・国文	佐藤栄学園	常勤	国語
	平12 文・国文	日本体育大学荏原高等学校	非常勤	国語
	平12 文・国文	横浜市立戸塚高等学校	非常勤	国語
	平12 文・国文	駒場学園高等学校	非常勤	国語
	平8 文・英米文	東京都立国分寺高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	松韻学園福島高等学校	常勤	英語
	平11 文・英米文	佼成学園中・高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	八王子高等学校	専任	英語
	平11 文・人文	花咲徳栄高等学校	専任	社会
平12 院文・修士	専修大学松戸高等学校	非常勤	地理歴史	
平12 院文・修士	東京農業大学第三高等学校	非常勤	国語	
平12 院文・修士	二松学舎大学附属高等学校	非常勤	公民	
平12 院文・修士	武蔵工業大学附属中学・高等学校	非常勤	地理歴史	
平成13年度	平10 経済・経済	千葉県立市原八幡高等学校	非常勤	公民
	平10 経済・経済	横手市立鳳中学校	専任	社会
	平6 法・法律	さいたま市立三室小学校	専任	
	平9 法・法律	国分寺市立第二小学校	専任	
	平10 法・法律	八戸工業大学第二高等学校	非常勤	公民
	平11 法・法律	尼崎市立武庫北小学校	非常勤	
	平11 法・法律	横浜市立原中学校	非常勤	社会
	平12 法・法律	江戸川区立二之江中学校	非常勤	社会
	平13 法・法律	柏高等技術学園	専任	公民
	平12 経営・経営	東京都経営短大村田女子高等学校	専任	商業
	平12 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平12 商・商業	静岡県立相良高等学校	専任	商業
	平13 商・商業	甲府市立甲府商業高等学校	期限付	商業
	平13 商・商業	静岡県立焼津水産高等学校	常勤	商業
	平12 文・国文	座間市立相模中学校	常勤	国語
	平13 文・国文	水原町立水原中学校	専任	国語
	平13 文・国文	日出女子学園中・高等学校	期限付	国語
	平13 文・国文	目白学園中・高等学校	非常勤	国語
	平4 文・人文	えびの高原国際高等学校	専任	地理歴史
	平8 文・人文	新潟県立巻工業高等学校	専任	地理歴史
	平12 文・人文	横浜市立浜中学校	専任	社会
	平12 文・人文	北海道羽幌高等学校	専任	公民
	平13 文・人文	流山市立小山小学校	期限付	生活科
	平13 文・人文	不二女子高等学校	期限付	地歴・公民
平11 院文・修士	狭山ヶ丘高等学校	専任	国語	
平12 院文・修士	熊本中央女子高等学校	非常勤	国語	
平13 院文・修士	東海大学付属高輪台高等学校	非常勤	英語	
平13 院文・修士	新田町立生品小学校	非常勤	社会	

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成14年度	平14 経済・経済	川北町立川北小学校	非常勤	
	平14 経済・経済	神奈川県立高津養護学校	非常勤	
	平14 法・法律	一宮町立一宮中学校	常勤	社会
	平12 商・商業	東京実業高等学校	非常勤	商業
	平14 商・商業	山梨県立高等学校	期間採用	商業
	平14 文・国文	田原町立田原中学校	常勤	国語
	平9 文・英米文	東海大学菅生高等学校	専任	英語
	平10 文・英米文	品川区立三木小学校	専任	
	平10 文・英米文	東京都内養護学校	専任	英語
	平11 文・英米文	柏木学園高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	八王子市立四谷中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	福島高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	宮城県迫桜高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	青梅市立第二小学校	専任	
	平13 文・英米文	騎西町立騎西中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	松任市立松任中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	大田区立馬込中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	報徳学園高等学校	非常勤	英語
平14 院文・修士	川崎市立西中原中学校	非常勤		
平14 院文・修士	岩手県立盛岡商業高等学校	専任	地歴・公民	
平14 院文・修士	杉並学院高等学校	非常勤	英語	
平成15年度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	指導助手	
	平15 経済・経済	新利根町立太田小学校	期限付	
	平15 経済・経済	福岡第一高等学校	常勤	地理歴史
	平15 経済・経済	館山市立船形小学校	非常勤	国語・社会・図工
	平15 法・法律	野木町立野木第二中学校	常勤	社会
	平15 法・法律	川口町立川口中学校	非常勤	数学
	平15 法・法律	湯之谷村立湯之谷中学校	非常勤	数学
	平15 経営・経営	静岡県立田方農業高等学校	非常勤	商業
	平13 商・商業	船橋市立船橋高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	専修大学北上高等学校	常勤	商業
	平15 商・商業	東京都立荒川商業高等学校（定時制）	非常勤	商業
	平12 文・国文	群馬県内公立小学校		
	平12 文・国文	福島県立福島南高等学校	常勤	国語
	平15 文・国文	倉敷市立児島中学校	非常勤	国語
	平15 文・国文	鶴岡東高等学校	常勤	国語
	平4 文・英米文	大田区立田園調布中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	作新学院高等学校	専任	英語
	平13 文・英米文	新鶴村立新鶴中学校	非常勤	英語
	平13 文・英米文	川崎市立御幸中学校	常勤	英語
	平13 文・英米文	三郷市立彦成中学校	専任	英語
	平15 文・英米文	新潟県立佐渡高等学校	期限付	英語
	平15 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平15 院経営・修士	埼玉県立所沢西高等学校	専任	情報
平14 院文・修士	獨協埼玉中・高等学校	専任	地理歴史	
平15 院文・修士	神奈川県立生田東高等学校	非常勤	情報・総合学習	
平15 院文・修士	朋優高等学校	専任	英語	

## 司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平14 経・経済	千葉明德短期大学図書館
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平11 商・商業	有隣堂
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平12 文・国文	青山学院女子短期大学図書館
平13 文・国文	実践女子大学図書館
平13 文・国文	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 文・人文	葛飾区立四ツ木地区図書館

## 学芸員課程主な就職先一覧

勤務先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
鳥羽水族館	行田市郷土博物館
高松市歴史資料館	埼玉県埋蔵文化財センター
浦和市くらしの博物館民家園	逓信総合博物館
矢島町立郷土資料館	野田市郷土博物館
乃村工藝社	町田市フォトサロン
（東京）電力館	

平成15年度 資格課程年間行事表

課程	教 職 課 程			司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
	月	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 届 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
5月	上 旬	介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3	司書課程学生 相談会	4			博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下 旬	介護等体験事前講習会	3・4						
6月	上 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4					博物館見学実習	3・4
	中 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出 教員免許状一括申請ガイダンス	3 3 4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべて 取得した者対象）	4		
	下 旬	介護等の体験開始 （6月下旬～2月初旬）	3・4						
7月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年） 夏 期 休 暇（7月下旬～9月上旬）							
8月	上 旬	前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
夏 期 休 暇									
9月	中 旬	教員免許状授与願ガイ ダンス	4	司書製本講習	4				
10月		教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
11月	上 旬					司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次に司書教 諭の単位を履修し ている者対象）	4		
	下 旬	教育学会	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
12月	中 旬							実習希望博物館との内諾交渉	2・3
								学芸員資格取得証明書申 請手続き	4
1月	上 下 旬	後 期 試 験・学 年 末 試 験（全 学 年）							
2月	下 旬	後 期・学 年 末 追 試 験（全 学 年）							
3月	上 旬							博物館実習承諾書の提出	2・3
	中 旬	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成15年度 資格課程教員紹介  
《司書・司書教諭》

## 《教職》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	講師	青木みのり	発達・学習心理学
法学部	教授	広瀬 裕子	教育行政学
法学部	教授	渡部 光	比較教育学
法学部	助教授	家永 登	法律学
経営学部	教授	嶺井 正也	教育行政学
商学部	教授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商学部	教授	中野 育男	商業科教育論
商学部	助教授	小峰 直史	特別活動論
文学部	教授	新井 勝紘	日本史
文学部	教授	伊部 哲	英語科教育論Ⅰ
文学部	教授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文学部	教授	米田 巖	地誌学
文学部	助教授	高橋 龍夫	国語科教育論Ⅰ
文学部	教授	仲川 恭司	書道科教育論
文学部	教授	松尾 容孝	地理学
文学部	助教授	備前 徹	国語科教育論Ⅱ
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	助教授	香山 瑞恵	情報科教育論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
経済学部	兼任講師	佐藤 由美	社会科教育論
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論
法学部	兼任講師	柏木 敦	道德教育論
法学部	兼任講師	関根 照彦	法律学
法学部	兼任講師	樋口 州男	日本史
法学部	兼任講師	油井原 均	教育課程論
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
経営学部	兼任講師	東 宏行	教育職員論
商学部	兼任講師	飯森 富夫	日本史
商学部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商学部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育論
商学部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学
商学部	兼任講師	前川 明彦	地理学
商学部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
文学部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文学部	兼任講師	小泉 仁	英語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	小林 基男	外国史
文学部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文学部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文学部	兼任講師	西田 暢子	外国史
文学部	兼任講師	藤江 康彦	教育方法論
文学部	兼任講師	山添 謙	地理学
ネットワーク情報学部	兼任講師	小原 豊	数学科教育論Ⅰ

## 《司書・司書教諭》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	助教授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	教授	後藤 暢	図書館特論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索
法学部	兼任講師	田中 均	情報検索
法学部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	丸山 光枝	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	小黒 浩司	図書及び図書館史
文学部	兼任講師	歌田 明弘	マスコミュニケーション
文学部	兼任講師	千葉 治	コミュニケーション論
文学部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論
文学部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論

## 《学芸員》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館学
文学部	教授	亀井 明德	博物館実習



専修大学は、1880年（明治13）に設立された私立専門学校（学校名「専修学校」）を基礎とし、時代の進展とともに発展してきました。創立当初の本学は、他校に先駆け経済科と法律科を併設し、経済学と法学の複合教育によって日本社会の近代化を担う人材を育成し、120年にわたり社会・経済の運営を担う実践的な人材を育ててきました。

## 専修大学の21世紀ビジョン

### 社会知性の開発を目指す

21世紀のさまざまな社会課題の解決に貢献し、合わせて自己実現を図っていく人材に求められるもの、それは、「社会知性（**Socio-Intelligence**）」だと専修大学は考えます。そしてこれが21世紀の「専修大学が創り育てる知」です。

### 社会知性

### Socio-Intelligence

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

注：後半のデータは確定済みの平成15年度のものに掲載しています。

専修大学資格課程年報「パッソ ア パッソ」第6号が完成しました。

お手にとっていただくとわかりますように、今年度は、表紙が新しくなりました。さらに、新たな試みとして、先生方のご専門の領域での研究活動の一端をご紹介いただくことにしました。日ごろ資格取得のための講義が中心となる資格課程ですが、先生方の研究者としてのプロフィールに触れていただければと思います。今年は、学芸員課程の亀井明徳先生が執筆してくださいました。中国の陶磁器のなごに迫る、格調高い内容となっています。また、国内研究にいらしているお二人の先生、鐘ヶ江晴彦先生と広瀬裕子先生にも近況をお知らせいただきました。

そして例年通り、図書館・博物館・教育実習、採用試験、介護体験、実際に現場で仕事をしての実感など、在学生や卒業生の先生方の貴重な体験談もたくさん掲載いたしました。これらの生きた情報は、なかなか会うことができないものです。パッソ ア パッソは、資格課程の学生のための年報です。ぜひ、これらの情報を上手に活用して、皆さんの希望をかなえるために役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、また、記録的な酷暑の中、執筆にご協力いただきました教員の方々、卒業生の先生方、在校生の皆さん、編集にご尽力いただきました教務課のスタッフの皆さん、ありがとうございました。ここに記して感謝いたします。

2004年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 青木みのり  
編集委員 亀井明徳  
仲川恭司  
荻原幸子  
臼井勝彦

### 平成15年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成16年11月30日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <http://www.senshu-u.ac.jp/School/shikaku/>

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0035 東京都町田市忠生1-18-18

TEL 042-792-3100